

第2章

県民交流広場間のネットワークの推進

1 地域コミュニティ・アワード2012の実施概要

県民交流広場の実施地域が 697 地区、県内全校区の 84%となる中、広場活動がさらに充実して実施されるよう、全県レベルでの交流の場として、「地域コミュニティ・アワード2012」を平成 24 年 10 月 14 日（日）に兵庫県立淡路文化会館（淡路市）において実施。

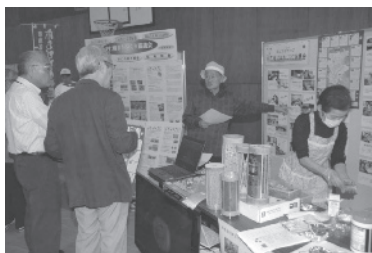
淡路地域の「淡路地域交流フェスタ」と合わせて “地域コミュニティ・フェスティバル”として共同開催し、約 1000 人が訪れた。

当日は、地域の代表によるブース展示をはじめ、広場同士の交流を図る広場座談会、広場の特産品や手作り加工品等の PR や軽トラ市、さらにモデル的活動を展開している広場のコミュニティ賞の表彰式を行った。

1 各県民局の地域代表によるブース展示

各県民局の代表 2 地区、計 20 地区の広場実施地域をはじめ、淡路地域の 6 地区、合計 26 のブースが出展。

木工手づくりおもちゃの展示や、都市と農村交流、歴史と伝統を活かした地域づくりの取組紹介、移動式足湯による足湯の提供、ふれあい喫茶を通じた活動紹介など、ユニークな取組やモデル的な活動について、工夫を凝らしたパネル展示により日頃の活動を披露した。今後の継続した活動に向け、それぞれの広場が交流し、学習し合う良い機会となった。



2 広場同士の交流を図る広場座談会

他地域との交流を進め、切磋琢磨することにより、ふるさとへの愛着を深めるとともに、新しい課題やその解決策を発見するための広場座談会を実施。

コミュニティ応援隊の辻信一氏をコーディネーターに、木田薫氏を会場インタビュアーに迎え、各広場の代表者が 4 つのグループに分かれて意見交換を行い、会場からの“いいね”“交流したい”の応援とともに、グループで出たアイデア等について発表を行った。

それぞれの広場の固有の取り組みについて再認識するとともに、他の広場との膝をつき合わせた議論により、今後の交流に向けた良い機会となった。



3 軽トラ市の開催

各広場の農産物、特産品の PR を行うとともに、今後の地域間交流に向けた情報交換等を行った。

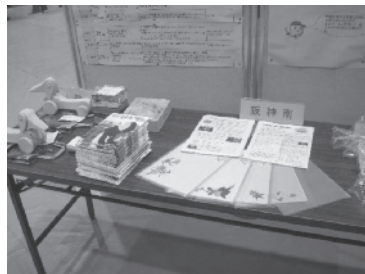
大自然の中で育まれた山菜や農産物でつくった加工品、地域でとれた野菜や名産品の販売等が行われた。



4 特産品等のPR

各広場の事業内容を PR するとともに今後の販売促進のためのきっかけづくりを目的に、各広場からの提供品を展示。

ものづくりを通じた住民交流を進めている広場からは木製手作りおもちゃや竹とんぼなど、地域の伝統料理の普及に努める広場からの“とふめし”の素や、地域の史跡/伝承を題材とした区民の手作りによる港かるたの提供があり、各地域での取組をPRする機会となった。



5 モデル的な活動をしている広場の顕彰

選考委員が各展示ブースをまわり、出展した広場の中から、今後のモデルとなる活動や特徴的な取組を展開している5つの広場を「県民交流広場コミュニティ賞」の部門賞として、展示内容や出展者との意見交換をもとに選考し、金澤副知事から部門賞と奨励賞を贈呈。

野崎隆一選考委員長からは、「例年になく、地域間交流をテーマにしているところが多かった他、ビジネス的な視点を取り入れたり、会合の持ち方を工夫している団体も多く出展されていた。同じ目線で活動している者同士が情報交換したり、意見交換するのが一番効果的なので、今日の発表や参加をぜひ、活かしていただきたい。」との講評があった。



《 県民交流広場コミュニティ賞 部門賞 》

- | | | |
|-----------|---------------|------------------|
| ① いきいき広場賞 | ： 播磨町蓮池地区 | 蓮池地域づくり推進協議会 |
| ② なるほど広場賞 | ： 淡路市郡家地区 | 郡家地域交流広場 |
| ③ みんなで広場賞 | ： 神戸市長田区志里池地区 | 志里池ふれあいのまちづくり協議会 |
| ④ すくすく広場賞 | ： 三木市吉川地区 | よかわふるさと交流推進協議会 |
| ⑤ しっかり広場賞 | ： 加西市宇仁地区 | 宇仁郷まちづくり協議会 |

1-1 開会式 10:00～

〔岡田代表：あいさつ〕

皆さん、おはようございます。ただいまご紹介いただきました、県民交流広場全県連絡協議会の代表世話人をいたしております岡田といいます。神戸市の北区から来ております。どうぞよろしくお願いいたします。

地域コミュニティ・アワードは今年で4回目ということで、過去1回目と2回目は嬉野台生涯教育センターでやってまいりました。3回目は去年、神戸市の兵庫県公館を使ってやってまいりましたが、今年初めて淡路にお世話になるということでございます。

私も1回目から参加させてもらって、今日もそうですけども、元気をもらって帰ると言いますか、ここへ来たら元気になるので、大変楽しみにしております。心躍ると言いますか、わくわくした気持ちに今なっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、うちの広場ですが、八多町では、1回目からブース展示で参加させていただきまして、最後に表彰があるのですが、私も審査委員をさせてもらっていますが、表彰をいただきまして、それが非常に励みになって、今、演芸発表会とかホタルコンサートなどの色んな活動の源になっているかなと思っておりますので、今日また元気をもらって帰りたいと考えております。



今日のテーマは「ふるさとへの愛着を深め、他地域との交流を深めるには」というようなテーマでやらせて頂きたいと思っております。

地域コミュニティ・アワード2012と淡路地域交流フェスタこの2つの行事を合同でやらせてもらうということで、地域コミュニティ・フェスティバルとして盛大に開催したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、今日は県立淡路文化会館のいざなぎの丘元気っ子フェスティバルも同時に開催されていると聞いております。

このように、年に1回ですけれども、アワードが開催されますのは、全県連絡協議会の皆さん方、県内各地で活動されている皆さん方、それから兵庫県の事務局の方のお陰だということで、高い席ではございますが、日頃本当にお世話になっておりますので、お礼申し上げたいと思っております。ありがとうございます。

それから、先ほども申し上げましたが、元気をもらって帰るということですが、色んな20のブースが出るということで聞いております。活動の成果とかノウハウをそれぞれ持ち帰り、兵庫県は日本海の方から瀬戸内海までと広いですので、色んな地区で色んな取組をされています。そういう様々な課題を話し合うということで、今日また、色んな交流を深めて、情報を共有することによって、地域づくりの活力にさせていただきたいと思っております。

既にこの広場の発表を通じて交流が始まっているという地域もあると聞いておりますけれども、今日はぜひ、ご覧になるだけではなくて、ここの地域だったら、うちと交流していかうとか、ここのこういう点を勉強しようとか、そういう積極的な交流の場になって、新しい活力ができたなら嬉しいなと思っておりますので、どうぞ今日一日よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔山内部長：あいさつ〕

みなさん、おはようございます。

兵庫県の政策部長の山内でございます。

今日は朝早くから、そしてこのように多くの皆様方にご参集いただきまして、ありがとうございます。

先ほど岡田代表から開会宣言をいただきました。ご紹介ございましたように、今日は全県アワードと淡路地域の交流フェスタ、同時開催させていただいておりますし、隣の会場では文化会館の元気っ子フェスティバルも開催されております。催しが盛りだくさんでございますので、秋の一日をどうかお楽しみいただきたいと思います。

県民交流広場事業ですが、これは元々、法人県民税の超過課税、言わば企業の皆さん方に税金をちょっと上乘せさせて頂いて、それを原資に補助をさせていただいております。そういう意味では多くの企業の皆様方のご協力、そして今日、県会から先生方にご出席いただいておりますけれども、条例化にあたっては、県会のご賛同もいただくなど、多くの皆様方のご協力のもとに成り立っている事業でございます。

それだけに、整備をされました施設は大事に使って頂きたいと思ひますし、活動も末永く継続して活動していただきたいと思います。

そのために、私どもも色んなフォローアップをさせていただいておりますが、今日のこのアワードも、その一環として取組をさせていただいております。

こうやって、異なる地域の方が一堂に会されて交流をしていただく、そして色んな他の地域の広場の活動も見えていただき、情報交換していただく。そうすることによって、活動がさらに元気になったり、あるいは永く続いていくと。こういうことに繋がっていくものと思ひます。

今日は展示ブースたくさんございますし、外には軽トラ市、そして午後からは座談会、表彰式と盛りだくさんでございます。

表彰式では、各県民局から2団体ずつご推薦をいただいておりますので、20団体。これから審査、選考が始まりますけれども、5団体に部門賞、15団体に奨励賞を贈呈させていただきます。

このような機会を通じまして、皆さん方の交流がはかられ、そして情報のネットワークが広がっていくことを願っております。

これからも県民交流広場事業が、益々活動が元気になってまいりますこと、そして末永く活動が続いてまいりますことを祈念申し上げまして、私からのあいさつとさせていただきます。今日はご参加頂きまして、ありがとうございます。



〔野崎委員長：あいさつ〕

どうも皆さん、こんにちは。

毎年、申し上げているのですが、選考については、5部門の賞を設けております。それ以外の方は全員奨励賞ということですが、この5部門は特に印象に残ったところを取り上げて、賞をさし上げるということです。皆さんの活動に優劣をつけるものではないということをご理解ください。



今日、出ていただいています20の団体

の活動は、いずれも各地域で本当に立派な活動をしていただいたということで、地域の方から選出されて出ておりますので、ここへ来ていただいたことが、皆さんへの評価であるとお考えいただければと思います。

バッジをつけた選考委員が皆さんのブースを回りますので、1ヵ所のブースにとどまるのは多分、時間の計算からいうと3分くらいしかとどまれないのですが、「選考委員です」と言いましたら、精いっぱい、それぞれのブースで皆さんアピールをして頂きたいと思えます。

先ほど申し上げました5つの賞というのが、1つは「いきいき広場賞」。これは、地域の個性であるとか、地域資源を生かした活動です。始まる前にずっと見せていただいたのですが、この賞に該当するところが非常に多く、ここはかなり接戦になるところかと思えます。

それからもう1つは「なるほど広場賞」。これはユニークなアイデアであるとか、独創的な取組をされているところを選ばせていただこうかと思えます。

それから3つ目は「みんなで広場部門」という部門ですが、地域の多くの住民さんを巻き込む色々な工夫をして、それから地域内の人たちと他の地域との交流ですとか、そういう色々な地域内外との交流を中心に、色々な工夫をされているところということで選ばせていただきます。

あと、「すくすく広場部門」ということで、これは、どの地域も色々な課題を抱えられておられるなかで、大きな課題となっています、次の後継者、自分たちの新しいリーダーを養成するような取組をやっているかどうかとか、それから県民交流広場の運営補助がなくなったら、どうやって、やっていこうかという悩みを皆さん持っておられると思うのですが、そういう財源的な運営補助がなくなっても、財源を自分たちで確保してやっていこうか。そういう運営的な人材のことと財源のこと、これをしっかりやっておられる団体が「すくすく広場部門」です。

それから、最後に「しっかり広場部門」ということで、団体内でいろんな決め事をするのに、ちゃんと合意をして、その決定の仕方がしっかりやっているかとか、それから、幅広い地域の住民さんの声を聞いたり、しょっちゅうアンケートをとったりして、広場の運営をどうしていこうかなど、色々な意見を採り入れながらやっているところに対して出そうと。

こういう5つの部門ですが、皆さんのところを回ったときに、うちはぜひこの部門を狙おうとか、うちの特徴はここだな。というところを、しっかりアピールしていただければ、審査委員も審査が楽になりますので、よろしく願いいたします。

それでは、こういう札をぶら下げた人が回りますので、よろしく願いしたいと思います。

〔野崎：あいさつ〕

◇ 「地域再生プラットフォーム形成事業」について

皆さん、こんにちは。今ご紹介いただきました、神戸まちづくり研究所の野崎と申します。いきなり地域再生プラットフォームと言われて、何のことかと思っておられる方、たくさんいらっしゃると思いますが、今お手元に配りました資料を見ていただきたいと思います。



今日は、皆さん、各地の県民交流広場事業で色んな取り組みをされた方々に集まっています。展示を見ていただいたり、それぞれのブースで交流していただいたりしているのですが、この事業の助成はもう終わるのですが、このきっかけでできた交流広場をどうやって取り組みを続けていくかという、取り組みをされてきた中で見えてきた色んな課題がございます。

例えば、人材の確保をどうするかとか、財源をどうするかとか。そういったことが中心だと思えますけども、交流広場事業をずっと県の事業としてやってきてはいますが、これからをどうするかということ、しっかり考えなければいかんというので、神戸まちづくり研究所のほうから提案しまして、兵庫県の地域づくり活動支援事業という募集が一昨年ありまして、それで県のモデル事業ということで取り組みをしている活動です。

いわば皆さんが今やっておられる県民交流広場事業をこれから支えていくために、どうしたらいいのか。お互いにどういうふうにするか、これが継続していけるのかということ、考えていこうという事業です。

簡単に説明をしますと、事業を実施しているのは、私のいる神戸まちづくり研究所というNPOと、それからもう一つ、ひょうご・まち・くらし研究所というNPO、それから、県民交流広場事業の全県連絡協議会、それに加えて兵庫県立大学にも入っていただいています。それから、兵庫県としては、兵庫県の県民生活課さんにご参加いただくと。一応、この今お話ししました、5つの当事者が参加をして、この事業をやっているということです。

◇ 事業の内容について

どんな事業をやっているかということですが、我々が今取り組んでいるのは、淡路県民局のエリアと、それから丹波県民局のエリア、この2つ地区だけなのですが、目標は、それぞれの地域で、少し広域に、それぞれで県民交流広場の活動をやっておられるんですけども、うちはこういう問題で壁に当たってしまっているとか、うちはこういうことで、うまくいっているのが皆に知らせたいとか、色んなそれぞれの思いがあるのですが、なかなか地域の中ではそういう思いはつながっていない。

よく、県のほうに直接、うちはこういう問題で困っているんだけど、どこか教えてもらえるような所はないかとか、見学行きたいんだけど、どんな所があるだろうかとか、というようなことの問い合わせがパラパラきております。そういうことを解決していくためには、エリアごとにネットワークを作って、単にネットワークをつなぐだけではダメですから、そこをちゃんと動かしていくような仕組みを作っていこうということを、プラットフォーム事業で取り組んでいこうと考えております。

◇ あわじ地域づくりラウンドテーブルについて

具体的には、昨年の平成 23 年度は、ここの淡路県民局で、どのエリアにお伺いをするかなど、県民局さんと打ち合わせをしたのですが、淡路では、全島の色々な活動を交流させたいということで、「淡路地域づくりラウンドテーブル」という試みを数年前からやっておられました。それぞれの地域に行って、活動を見学するというイベントだったのですが、それをもう少し、最終的にはネットワークにつなげていくような形で、一年間やってみようじゃないかというお話がありました。そこで、我々は、ラウンドテーブルにお邪魔して、そこでの議論に参加しながら、その議論をその都度まとめたりしながら、お手伝いをしてまいりました。

【第 1 回】

その活動については、資料の中に少し書いてはいますが、例えば、第 1 回は、洲本の千草公民館で開催しました。この時は、基本的には千草の公民館行って、千草の公民館を活用している県民交流広場事業のお話を聞く。その後は、グループに分かれて皆でディスカッションをするということによって構成されています。そこで出た意見では、イベントってというのは、地域デビューする、普段地域の活動に参加していない方が、地域に参加していく、一つのデビューの場であると。だから、イベントはそういう意味で非常に大事だと。

それから、県民交流広場はいつでも誰でも、行けるような場所であることが必要だと。普段鍵が閉まっているようでは広場にならない。というような意見もありました。

【第 2 回】

第 2 回は南あわじ市の賀集地区の公民館で開催しました。その時のテーマは、他の団体との連携と人材の確保でした。この 2 つをテーマにディスカッションしました。この時出た意見で印象的だったのは、やっぱり地域の活動は、女子力。女性の力が大事やと。これが大きいという意見が出ました。それから、人材の確保という言葉と、やはり 5 年 10 年のスパンで活動を考えていかないと、なかなか人材を確保することは難しい、というような意見が出てきました。

【第 3 回】

第 3 回は長沢交流センターで開催しました。この時は、地域の魅力ですね。淡路の魅力。魅力をどう発信して、地域のつながりや軸に活かしていくのだろうかというようなことをテーマに発表して、ディスカッションをしました。

そういう中では、これは淡路島のイベントですけど、淡路というのは心の休憩場所にしたい。淡路に来ると皆ホッとすると、そういう場所に淡路をすることが大事だというよう

な意見が出ました。それから、やはり地域に外部から人に来てもらうためには、ある種のサプライズがあると。来て、「あ、こんなことがあるのか」と驚きとか発見がなければ、なかなか魅力にならない。



【第4回】

第4回のテーマは、世代間の交流、世代間のコミュニケーションでした。今日は色んなブースを回らせていただいたのですが、やはり、なかなか世代間の交流は難しいとか、どうしても同じ年代の人に、担い手が偏りがちになってしまうという話が出ました。そういうコミュニケーションをどう作っていくのか。

交流の意見の中では、若い人は、やはり何となくやらされている感があって、自分でやっているというような形での取り組みが難しい。それから、一言でコミュニケーションと言いますが、色んな要素があって、初めてコミュニケーションが成り立つ。単にニュースだけ配って、うちはコミュニケーションしていますよと言うだけでは、十分なコミュニケーションにならない。ニュースで読んだことに、例えば、今やっているイベントでその人に出会うとか、多様なことが重なると最もコミュニケーションにつながっていくというようなことです。やはり長続きさせるためには、遊び心が必要だなというような話が出ました。

【第5回】

第5回では、地域や分野を超えたネットワークづくり、ネットワークをどのように作っていくのかということテーマにしました。その時には、熱意と時間がある人をどうやって組織するのか、結構熱意と時間があっても、今活動されている皆さんとつながっておられない方がたくさんおられますよね。そういう埋もれた人材、そういう人たちをどう発掘するのか。そういう人たちがうまく組織できれば、活動がうまくいくという話がありました。

それから、多様な事業のコラボです。例えば今日の展示のような中でも、古民家を再生して、古民家に色んな人に来てもらうという事業をされている所もありますし、地域でうちの地域の名物を作ろうと、地域ブランドの名をつけた商品を作ろうというようなことをやっておられる所もあります。そういう人たちがうまく地域内でコラボする、連携をすると、活動が倍にふくらんできて、相乗効果になる、そういうことが大事なような気がします。

【第6回】

最後の第6回については、我々が目指していました、プラットフォームというイメージについて、皆で議論して、プラットフォームってどういうふうにあったらいいのかという議論をしました。その中で、出てきたのは、プラットフォームっていうのは場所でもないし、それからボーと座って相談に来なさいと待っている場でもないだろうと。むしろ、色々経験を積んだ淡路島の中でも色んな人材の人たちが集まって、それぞれ交流広場で色んな活動されている所に出かけて行って、そこを支える、応援する、色んな困り事、それから

壁にぶつかっている色んな所に対して、下支えをして、活動の継続を促していくような、そういうものがプラットフォームではないかというような意見が出ました。

淡路島の皆さんも、「なるほど。それがそうなんだ」というふうなことで、納得をして、今も活動を続けていただいています。

淡路については、そういうラウンドテーブルを作ってやりながら、コアメンバーは今8人くらいいらっしゃるんですが、その人たちで集まって、もうすでに4回会議をやりました。そのメンバーで、今年度は色んな始めたばかりの活動であったり、それから地域でつながろうという決意をして、つながることを助けてほしいとか、そういう2つの要請がありますので、そこにコアメンバー総掛かりで、色んなお手伝いをしたり、アドバイスをしたり、していきながら、交流広場の今後の継続について、色々なノウハウをそこで吸収していこう、そういうことが淡路型のプラットフォームということで、見通しをつけて、今活動しています。

◇ 丹波地域「地域再生プラットフォーム形成事業キックオフフォーラム」について

それからもう一つは、実は今年度から、丹波地域でも同じことをやっていこうかということで、丹波市と篠山市さん、それから丹波県民局で、色々打ち合わせをやっていっているのですが、実は、つい先日9月1日に丹波で地域再生プラットフォームを立ち上げるためのキックオフのフォーラムを開催しました。

約40名近くの方々が集まっていただいて、淡路の活動を報告すると同時に、その後グループに分かれてディスカッションというようなことをしてもらいました。

その結果、色々グループごとに淡路の方、丹波の方、交ざって、意見の交換をしたり、色々県民交流広場事業とかそれ以外の事業の方もたくさん関わったのですが、色々話し合いをして、こういう地域の活動を続けていくために、どんなことが一番大事かというようなことを各テーブルで、ペーパーに書いて出していただきました。それが少し資料に写真で紹介されているようなことです。

どういうものが出てきたかということ、例えば「活動の見える化」、それから「価値観の可視化」というようなことが出てきた。どちらも思っているだけではダメだとか。それから1対1で会って話すだけでも十分だよなとか。それを、今やっていることをいかに地域の人たちに、目に見える形でアピールしていくか。

例えば会議の場に際しても、そういう会議の場でも、議論している方が今何を議論しているのかとか。そういうのをちゃんと見える形で進行すると、会議もわりと参加しやすいですよ。一人の方が長いこと喋っているだけで、皆がそれを聞くだけで終わってしまうような会議じゃなくて、お互いに意見が言い合えて、それがちゃんと形として残っていくというふうなやり方、何でも見える化して話をしていくっていうことが大事です。そういうことが言われています。

一番右が「『年金』は地域にとって外資」というような、要するに変な言い方ですけど、活動している人は年金をもらっている人が多いから、活動する人は年金を自腹切って活動している。そういう形に今なっているという話です。

それから「当事者になる」ということです。その右側にも小さい字ですけど、人のために

してあげているとか、やらされているからやっているという活動では、なかなか続かない。自分がやっていることは自分に返ってくるんだと。実は自分のためなんだという意識が変わっていくと活動をやっていても苦にならないし、やり続けていくという気持ちにつながっていくと。そのようなことが、当事者になるという意見。

それから、下のほうにいきまして、「地域づくりはしくみづくり」だということですが、やはり思いはあっても、それをうまくつないでいって、形に残していくような地域独自の色々な仕組みにしていかなきゃいかんとか。皆さんやっておられる、県民交流広場事業も一つの仕組みでありますし、これは県から助成金があると、県から提案みたいになっていきますけども、どういう形でそれをやるかは皆さんの自由なんですよね。だから、それぞれでうちはこういう形でやろうと始められていますので、それをぜひ、一つの仕組みとして作りあげていっていただきたいと思います。

それから、その左側に、「ノリとトビラ」。「人材は『ノリ』で！」と書いています。

実はこの「ノリとトビラ」という言葉が、キックオフの時、皆さん一番、なるほどと皆で拍手した言葉なんです。どういうことかという、活動を始めるにあたって、ノリがいますよね。活動をどんどんやっていくについても、楽しくないといけない。一種のノリで活動しているとか、皆ノっていこうみたいな感じでやるわけですが、ノリだけでやっている



と、あ、あの人たちのノリでやっている、ノリで動いている人たちの事業ではないかと。一生懸命やってはるけども、あの人たちグループの事業だよと、なかなかノリが良ければ良いけれども、そこに外部の人は入りにくいですよ。

ノリとトビラ、トビラのほうが大事だって話です。要するにノリでやっている人たちは、自分の親しい仲間、気心知れているから、ノってどんどんやれる。でもノリだけでやっているとなりの人はついて来られない。というので、やはりトビラを開けておくと、いつもトビラ開けて入ってきてくださいということが大事だと。だからノリだけではダメで、ノリとトビラということが、キックオフフォーラムでは、この言葉が一番の主演になって終わりました。

丹波地区では、今、丹波市さんと篠山市さんの2市がありますので、それぞれの所で、皆で見学をしてみたいなという所を選んで、募集をして、そこで見学をして、その人の話を聞きながら、参加者でディスカッションするというようなことを、丹波でやり、篠山でやり、やっていこうかと。

その中で、こういうプラットフォームの必要性とかに気付いてくれた人たちが、グループを作って、今年度の末には、なんとか丹波らしいプラットフォームのあり方を見つけていきたいと考えています。

◇ 今後の取組について

今年度と前年度の取組みについては、ご説明しましたけれども、これからは、皆さんのそれぞれの地域で、自分とこだけの活動ではすごく不安がありますよね。運営費の助成切れたら、あんたそこはどうするのとか、うちは、こういうことやっているよとか、こういうやり方したらうまくいくよとか、お互いに交流して教え合うような場が、ますます必要になってきます。

年に1回、それぞれの県民局で色々なそういう催しをやっているのは聞いているのですが、常時声かけ合いができるような場があったらなと思っています。また、今年度終わりましたら、淡路と丹波で実施したプラットフォーム形成事業の報告をどこかでやらせていただきたいと思いますが、皆さん、それぞれのエリアでも、今抱えておられる、交流広場事業というのを実験的にやってみて、そこから新たに見えてきた色々な課題、運営をしていく課題であるとか、そういうものについて、意見交換したり、ネットワークをしたり、お互いに助け合ったり、そういうふうなプラットフォームを、できるだけ色々な地域で作っていただければと思います。

実は県のほうでは、交流広場を応援するコミュニティ応援隊というようなものがあります。CATと言っていますが、そのメンバーに声かけしていただければ応援にも行けますし、それに地域の中でも応援ができるかもしれません。そういう仕組みを使って、今後とも交流広場事業、皆さん頑張っていたいただきたいと思っています。

交流広場に関わるということで、今日はプラットフォーム形成事業の中間報告をさせていただきました。どうもありがとうございました。

☆☆☆ 地域再生プラットフォーム形成事業の取り組み ☆☆☆

地域再生プラットフォーム推進協議会

■ 「地域再生プラットフォーム形成事業」ってどんな事業？

○ 事業の目的

今までに、さまざまな制度や仕組みの中で、地域自身が地域課題を解決できるような仕掛けがあちこちで行われてきました。観光や福祉などそれぞれの分野で新たな担い手は発掘されてきてはいますが、長期的な視点で考えると、少子高齢化、人口減少が今後進む中で、小さなエリア内だけで解決することがますます困難になっていくと考えられます。

地域再生プラットフォーム形成事業は、地域に点在する個々の取組をつなぎ、互いの効果や資源を合わせ、地域の課題解決力、運営力を高めることのできる場（プラットフォーム）を構築しようとするものです。国の「新しい公共支援事業」を受けた兵庫県の「地域づくり活動支援事業（県モデル事業）」により実施しています。

○ 事業の実施体制

以下のメンバーで、地域再生プラットフォーム推進協議会を平成 23 年 9 月に設立しました。

- ・ 兵庫県企画県民文化局県民生活課
- ・ 県民交流広場全県連絡協議会
- ・ NPO 法人ひょうご・まち・くらし研究所
- ・ 兵庫県立大学政策科学研究所
- ・ NPO 法人神戸まちづくり研究所（事務局）
- ・ 兵庫県淡路県民局県民生活室

○ 事業の内容

初年度の平成 23 年度は、淡路地域で淡路県民局が実施された「あわじ地域づくりラウンドテーブル」にご一緒させていただき、参加者の中から 8 名の方に、地域再生プラットフォームに入ってもらい構成メンバー（コアメンバー）としてお声かけしました。

平成 24 年度は、淡路地域では 8 名のメンバーで「淡路でプラットフォームをつくる会」をつくり、淡路地域に適したプラットフォームの形を話し合っています。また、丹波地域でも事業を開始し、地域再生プラットフォーム形成の取り組みの第一歩としてキックオフフォーラムを開催しました。



■ 具体的にどんなことをしてきたのですか？

○ あわじ地域づくりラウンドテーブル&フォーラム（淡路地域でのヒアリング）

あわじ地域づくりラウンドテーブルは、井戸端会議的に気軽に情報交換の場としてスタートし、平成 23 年度は地域づくりの拠点を巡り、そこの活動を聞いてからテーマに沿った意見交換を行いました。地域再生プラットフォーム推進協議会のメンバーは、ファシリテーショングラフィックでの記録や、意見交換の場にワークショップの手法を取り入れるという形で参加しました。

【第 1 回】(H23) 9 月 29 日 千草公民館（洲本市）

活動紹介：洲三古里地域推進委員会

主な意見：イベントは地域デビューの大きなきっかけになる、いつでも誰でも行ける居場所が大事



【第 2 回】10 月 28 日 賀集地区公民館（南あわじ市）

活動紹介：賀集地区交流広場推進委員会

交流テーマ：「ほかの団体との連携、人材の確保」

主な意見：女子力は大きい、人材確保は 5 年 10 年のスパンで検討する

【第 3 回】11 月 17 日 長沢エコ島民センター（淡路市）、ノマド村（淡路市）

活動紹介：自然ふれあい長沢・NPO 法人淡路島アートセンター・ノマド村

交流テーマ：「地域の魅力・淡路の魅力、魅力の発信、地域のつながりづくり」

主な意見：淡路島は心の休憩場所、サプライズがあれば人は来る、小さな仕事がバランスよくあれば持続可能な地域につながる



【第 4 回】12 月 9 日 大野公民館（洲本市）

活動紹介：大野地区県民交流広場推進委員会

交流テーマ：「世代間の交流・コミュニケーション」

主な意見：若い人はやらされている感が負担、コミュニケーションには多様性の尊重が大事、長続きするには遊び心が必要

【第5回】(H24) 1月11日 田舎暮らし・自然体験施設「宙(おおぞら)」(洲本市)

活動紹介：NPO 法人あわじ FAN クラブ

交流テーマ：「地域や分野を超えたネットワークづくり」

主な意見：自分の役割や立ち位置が分かった、おもてなしの心が必要、拠点となる場所・場づくりが大事、本音が出せる場づくり

【第6回】2月3日 市地区公民館(南あわじ市)

活動紹介：市えびすふれ愛メッセ

交流テーマ：「身近な地域の“よりあい”とそれを支える“プラットフォーム”」

主な意見：熱意と時間がある人を組織する、多様な事業のコラボを中心に、県民局や市の支援は必要



【第7回(フォーラム)】3月17日 洲本市健康福祉館(みなと元気館)

テーマ：「身近な地域の課題解決を支援する淡路島プラットフォームづくり」

まとめ：プラットフォームは活動を下支えするもの

※ヒアリングとしては、他に県民交流広場1ヵ所、NPO法人2ヵ所を実施しました。

【ヒアリングによるキーワード抽出】

若者 女性 老若男女 転入者 外国人 子ども 学生 熱意と時間がある人
リーダーシップ 都会 田舎 阪神間に近い 男の出場所 いつでも誰でも行ける
孤立を防ぐ 交流 仕事づくり 安全安心 農業・漁業 体験 宿泊 民泊 自然 おもてなし
広報 イベント アート 伝統文化 伝統芸能 マップ 食育 環境保全 子どもの健全育成
財源 遊び心 魅力 情報発信 情報共有 ネットワーク 団体間コーディネート 経験
専門家 多様な事業のコラボ 行政の支援 拠点になる場所 など

○ 淡路でプラットフォームをつくる会

活動を下支えするプラットフォームをどのようにつくっていくかについて、活発な話し合いを進めています。平成24年度のラウンドテーブルの企画にも関わっています。また、事業が新たに始まる丹波地域のフォーラムにも先輩として出向いて参加し、事例紹介とともに地域間の交流を進めました。

【開催】第1回：(H24) 6月22日、丹波フォーラムに向けて

第2回：8月10日、第3回：10月10日

○ 丹波地域「地域再生プラットフォーム形成事業キックオフフォーラム」

丹波地域での取り組みを開始するにあたり、地域再生の活動を行っている団体やグループが、課題を持ち込み共有し、連携して解決を図っていく第一歩としてキックオフフォーラムを開催しました。

【開催日・場所】(H24) 9月1日 柏原住民センター会議室 A-1~3

【参加者】篠山市 13人、丹波市 19人、丹波県民局 3人、淡路地域 8人、推進協議会 12人、他 4人

【プログラム】:

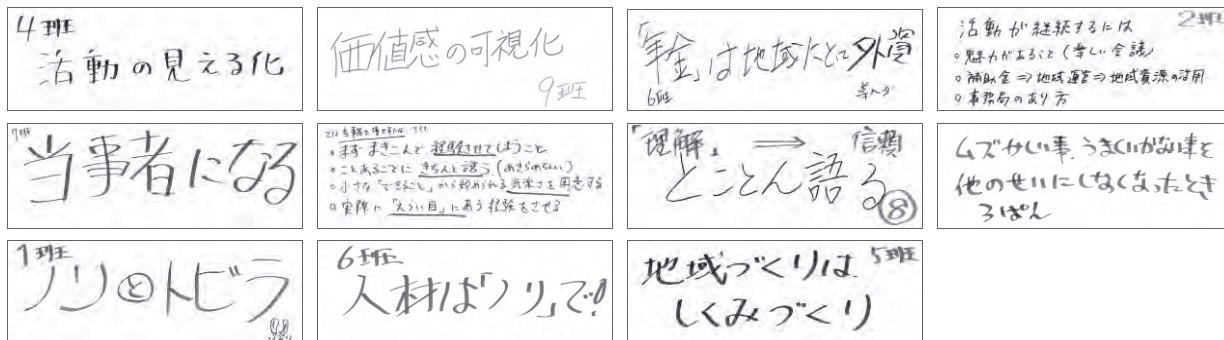
- ・趣旨説明と主催者紹介
- ・事例紹介①あわじ地域づくりラウンドテーブル
②淡路市生田地区『そばカフェなど』

- ・ワークショップ

「出会おう！語ろう！丹波のみらい」

- ・コメント・まとめ

【出てきたキーワード】:



■ 今後はどんな展開を考えているのですか？

○ 淡路地域

島内の活動の一つをモデル事業として選び、そこをコアメンバーとともに応援し、活動の下支えのノウハウを蓄積することを目指します。

○ 丹波地域

淡路地域のラウンドテーブルのような交流をするために、主にキックオフフォーラム参加者に呼び掛け、どの地域や活動を対象にすればいいのかを選定する会合を持ちながら次の展開を考えます。

○当事業のお問い合わせは、NPO 法人 神戸まちづくり研究所まで
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 4 丁目 1 番 6 号 コミスタこうべ北棟 3 階
tel : 078-230-8511 fax : 078-230-8512 e-mail : LET07723@nifty.ne.jp

この事業は、兵庫県の地域づくり活動支援事業（県モデル事業）により実施しています。

1-3 県民交流広場座談会 13:30~14:30

◆コーディネーター : 辻 信一氏

◆会場インタビュアー : 木田 薫氏

- Aグループ：神戸市成徳地区、伊丹市神津地区、三木市吉川地区、宍粟市戸原地区、篠山市古市地区
Bグループ：神戸市志里池地区、宝塚市長尾地区、加西市宇仁地区、上郡町梨ヶ原地区、丹波市葛野地区
Cグループ：尼崎市長洲地区、高砂市高砂地区、姫路市野里地区、養父市宿南地区、南あわじ市市地区
Dグループ：西宮市生瀬地区、播磨町蓮池地区、姫路市八幡地区、香美町余部地区、淡路市郡家地区

◇ 座談会の進め方について

〔辻〕

それでは、今から県民交流広場の座談会を開催したいと思います。簡単に、これから行う座談会の趣旨をご説明いたします。

今日は県内各地から、たくさんの交流広場の皆さんにお集まりいただいて、ブースで色々ご紹介いただいているんですけども、それだけではなしに、これからの交流につながるような、膝をつき合わせた座談会というのを行おうと考えております。

全員が参加できれば良いのですが、これだけの人数ですので、なかなか全員では難しいということで、それぞれの代表の方にお出になっていただいております。

それでは今から始めますが、それぞれのグループに分かれています。後で、そこでどんな話があったのかというをご紹介します。こんなことがありましたよ、というのがあって、「あ、それいいな」ということになったら、後で「いいね札」というのを、皆さんにお配りしますが、「あ！それはいい！」というような形で札を上げていただくと、どのような取り組みの人气があるのかな。というバロメーターにしてみたいなと思っておりますので、よろしく願います。

申し遅れました。私はコミュニティ応援隊の辻と申します。どうぞよろしく願います。そして、今日一緒にやらせていただきます、木田さんです。

〔木田〕

コミュニティ応援隊の木田薫と申します。どうぞよろしく願います。

◇ 座談会のテーマについて

〔辻〕

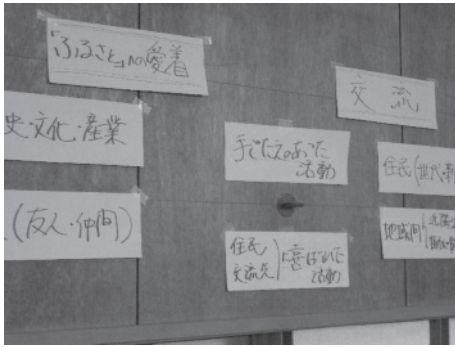
今日の20団体の方々をお一人ずつ5団体に分かれて4つのグループに分けております。1つのグループは5団体になります。

お話し合ってください。テーマは、「ふるさとへの愛着を深め、他地域との交流を深めるには」ということになっております。

県内700カ所くらい県民交流広場があって、それぞれ活動されていますが、コミュニティが活性化しつつあるというような、そういう状況があります。また、地域の課題解決によって、「ふるさと」への愛着を再認識していただいていると、そのような段階にすでに達していると思われま



これからは、更に他地域との交流を深めていきたい、もっとコミュニティを元気に、そしてふるさとを元気にしていただきたい。と考えているわけであります。



それでは、このようなテーマで進めていきますが、少し解説をしますと、一つは「ふるさとへの愛着」、色んな地域でふるさとへの愛着を深めるために、例えば、この地域の歴史とか、文化とか産業とか、そういうようなことが、皆さんの中で色々深められたのではないかと。それともう一つは「人」ですね。交流広場で人が集まってきた、仲間が増えてきた、こういうようなことがあると。

これと、もう一つのテーマが「交流」ですね。交流というのは、地域住民の交流、世代間の交流とか、新旧住民の交流とか、そういうようなことが行われてきました。それと今日のテーマであります、地域間の交流、というのが大事になってこようと。住民間の交流というのは、この何年間の交流広場の活動の中で、大分できてきた。そして次は、ぼちぼち、地域間交流の段階に差し掛かっているのではないかと。

すでにやってらっしゃるところもありますよね。まだまだ全部は行ってないかな。地域間交流というのは、少し整理しますと、近隣の地域間の交流、例えば、淡路なら淡路の中での交流というのがありますが、すでに発表を見ていきますと、遠方の団体との交流、これも始まっている。それから、似たような活動をなさっているところ同士の交流と、全然違う活動をしていらっしゃるところの交流と、こういうのが出てきたんじゃないかというようなことがあります。

今日のテーマ、「ふるさとへの愛着を深めながら、他地域との交流をどんどん進めていこう」という、そういうことについて、お話しただくわけでありますが、これまでの皆さん方の活動の中で、この2つのテーマに対して、手応えのあった活動、こういうことをやったら、なんか反響がありましたよ。とか、手応えのあった活動がどんなものであったのかな、というのをお知らせいただければ有り難い。あるいは住民間の交流、あるいは交流先との、他地域との交流なさっていらっしゃるとか、そういう交流の中で、喜ばれた活動、こんなことしたら皆喜んでくれたよ。そういうような活動があったのではないかと思うんですよ。

そういうことがあるからこそ、楽しいことがあったからこそ、交流が深まっていくのだらうと思います。そういうようなご経験を、それぞれのグループの中で、お話し合っていたいただきたいと思います。

これから30分間、今から始めていただきますが、会場の皆さんは、ここで話しをしているので、話聞きに来るとか、あるいは、もう少し時間がありますので、他の発表を見ていただくとか、ということで30分間、お時間ちょうだいしたいと思います。

それでは、各グループの皆さん方、こういうテーマに従って、お話を進めていただきまして、30分後にそれぞれの代表の方が、こんな話がありましたよというのを発表していただきます。

それではどうぞお願いいたします。

<各グループ毎に座談会>

〔注〕

それでは、各グループ5分くらいの時間で、このようなお話がありました。その中で、

とりわけこういうキーワードが出てきましたよ。というのを、発表していただきたいなと思います。そうすることによって、この会場全員の皆さんが、ここでどんな話し合いが行われたのかな、というのがわかります。

会場の皆さん、できるだけ前の椅子に座っていただいて、お聞きいただくようお願いいたします。発表の順番ですが、せっかくA・B・C・Dと並んでいますので、Dグループからいきます。それでは、Dグループの皆さんに発表いただきたいなと思います。

よろしくをお願いします。

◇ グループ発表（D）

〔Dグループ（発表：香美町余部地区）〕

どうもこんにちは。私は、兵庫県の一番北にあります、香美町の余部、余部鉄橋、今、新橋梁になった、その「明日の余部を創る会」の事務局をしております、馬場といいます。よろしくをお願いします。

私の班、D班ですが、そこでは、色々話しさせていただいたんですけど、地域に対して、しっかり皆さん愛着を持って、活動しておられるという話で、ちょっと盛り上がりました。でもやっぱり地域が違うので、もう色んなところから集まって話ししてるんで、なかなか接点が見つからないというのが、ほとんどでした。その地域、地域の多様性があるので、皆色々なことを言ってるんだけど、話がなかなかまとまらないというのが、本音のところですよ。

その中でも、ここの郡家（淡路市）の方から、足湯を使って、色々事業をされていることが、一番盛り上がったかなということで、足湯を使い、体操をやったりとか、色々な地域の方とのコミュニケーションをいっぱいしてきたというのが、一番盛り上がっている事業かなという話にまとまりました。以上です。



〔辻〕

ありがとうございます。今のお話で、同じ地域でも色々な地域があって、なかなか難しいなという話とか、それから足湯が面白いなという話がありますね。色々聞いていただいたと思いますが、これで、今のお話の中で、「いいね」「あ、そうか」というのがあった方は「いいね」というのを見せてみて下さい。

それから、どこかその地域と「交流したい」という人は、これを見せて下さい。両方の人はこうしましょう。はい。私が合図します。「いいね」というのがあったという方はこちら。それから「交流したい」という方、両方はこう。はい。それではどうぞ上げて下さい。「いいね」がたくさん出ましたね。少し「いいね」をあげた方にインタビューをしてもらおうかな。

〔木田〕

今、「いいね」と「交流したい」と両方上げられたみたいですけど、どんなところが良かったですか。

〔会場〕

僕らも生瀬（西宮市）のほうから来ているんですけど、色々とちゃんとやっぱり勉強してやっていきたいと思います。

〔木田〕

はい。ありがとうございます。

〔辻〕

もうお一人方。

〔木田〕

もう一度手をあげていただいて良いですか。ずっと下げられたのでわからなくなっただけです。上げられていましたよね。お隣の方も上げられていた。



〔辻〕

上げてなくてもインタビューしましょうか。

〔木田〕

上げてましたもんね。どこが良かったでしょうか。

〔会場〕

やっぱり足湯で皆さん仲良くできたということは、良いと思います。

〔木田〕

足湯ですね。はい。ありがとうございました。

〔辻〕

はい。ありがとうございました。このように進めていきますので、上げたら当てられるかもわからへんていうて、尻込みしてはあきませんよ。皆さんの意見がまた反映されるんですからね。パッと上げましょうね。それではCのチームからいきましょう。

◇ グループ発表（C）

〔Cグループ（発表：姫路市野里地区）〕

失礼します。私は、Cグループの座長を務めております、姫路の野里地区の代表でございます。私のところでは、尼崎市（長洲地区）さん、それから養父市（宿南地区）さん、高砂市（高砂地区）さん、南あわじ市（市地区）さんと座談会をやりました。



尼崎市さんのところは、元々、色々な活動をなさっていたんですが、県の助成があるということで、これはありがたいということで、22年からスタートされたようです。

まず青パト。要するに防犯のために青色パトカー、200万ほどで買われて、これが非常に好評であると。話の中で特に気を引いたのは、信用金庫の職員さんが、それに参加してやっておられると。要するに、固定された団体ではなくて、たくさんの分野から援助を、援助というかボランティアで参加していただく、これは非常に良い話ではないか

なというふうに考えます。あと、寄席をやったり、そういうことで、長洲寄席は年2回ほど、これは500円ほど取るらしいですけども、これは非常に好評であるということがお聞きできました。

それから養父市さんでは、ここはコンパクトなところでありまして、人口が 853 名と今お聞きしました。しかし、昔から文化祭とかを続けておられまして、普段、芸能とか、農産物の販売、住民の方の芸術品を寄せ集めて、色々展示をやっておられるということです。これはずっと続いている、継続してやっておられるんですけども、交流という意味では、運動会、それからふれあい喫茶を始められたということです。その中で、もう一つは盆踊りをやられています。



ふれあい喫茶は、なんと年間 2,500 名ほど来られる。ちょっと集落から、本当のご商売なさっている喫茶店行くには少し遠いので、地区内につくると、2,500 名ほど集まられている実績を持たれております。

自家用有償バスも走らせているということで、非常に活発な活動をされているかと思えます。ただ、非常に高齢化が激しくて、若い人たちへの引き継ぎが、何回もここでは出ておりますけども、問題かなというふうに唱えておられます。



高砂市さんですが、「来て民家」というユニークなお名前をつけました。その民家が、いわゆる建物の民家ということでございます。古民家を活用して、広場として活用されているところでございます。

23 年の 9 月にオープンされまして、まだ、1 年少々で、今はどちらかというところかなというふうに思います。ただ、民家を改修されるのに、非常にお金を使われまして、あとの運営が、厳しいということでございます。どこも厳しいかと思えますけれ

ども、運営をどういうふうに生み出していくかということが、これからの課題であるというふうにおっしゃっています。

南あわじ市さんのところは、公民館が拠点施設になっているのですが、市の中心部にございまして、ほっとっても市役所等がありますから、周囲から寄って来られるということで、来る者拒まずということで、他地区からどんどん人が来られているというふうにお聞きいたしました。

ここは、非常に歴史とか文化が、盛んなところでありまして、ちょっと PR をさせていただきますと、だんじり歌とかですね。このだんじり歌というのは、ここに座っておられる山本さん、自称、子どもの中では日本一やおっしゃっています。そういう意味で、何かありましたら、聞きに行かせていただければ良いかなと思います。



その他、市村小唄踊りとか、そういう無形文化財的なものがあるようでございます。これは大人の踊りですかね。ですから子どものほうにも広がってほしいなというふうにおっしゃっています。これが一つやっぱり世代間の交流になっていくのではないかなと思います。

世代間の交流といえば、色んなお祭りの時に、各種団体が出店をしてきて、それから舞台発表をしてくれている。世代間の交流にも非常に力を入れられている、ということでございます。

非常に、はしょって失礼なんですけども、最後に私どもの野里広場というのは、私ども

も非常に姫路城の近くにありまして、世界文化遺産のバッファゾーンの一部分に入っています。なぜかという、やはり歴史文化というのが非常に重厚なところでありまして、これが、私どものカードに書いておりますが、皆さんのところは、それなりの特徴を活かして、特に歴史文化がやはり多いと思うのですが、これを住民さんにできるだけ、納得してもらおう、理解してもらおう、認知してもらおう、これが地域に対する愛着が沸く一つの材料ではないかなと考えています。



愛着が出ますと、まちづくり等々に対しての原動力が沸いてくるのではないかな。というふうに考えております。私とこはそういうことを狙ってやりたいなと考えています。

ただ、こういうことをやっていこうとすると、時間がかかります。県さんをお願いしたいのは、もう少し長い補助期間を設けていただくとか、制度の延長をお願いしたいなと考えておりますが、皆さん、いかがでございましょうか。

ということで、つたない報告ではございますが、C班の報告にかえさせていただきます。ありがとうございました。

〔辻〕

各団体からのお話の内容、詳細にご紹介いただきました。さあそれでは、今のお話の中で「いいね」があった、「交流したい」があった、両方があった方、このうちわをあげていただきたいと思います。私のほうに見えるように上げてくださいよ。交流したい、自分が交流したいが見えたら、私、これしか見えませんから、反対側にやってくださいよ。それでは上げてください！はい！あげましょう！もっとあげましょう！大きく！シャッと上げましょう！皆、インタビュー行くからって減りましたね。はい、それではインタビューを2人からお願いします。恥ずかしがらんと上げてくださいね。

〔木田〕

はい、ちゃんと今度は見ていましたので、ちょっと後ろのほうに行きたいと思います。後ろで安心していらっしゃるかなと思うんですけども、どういうところがよかったですか。

〔会場〕

交流のね、皆さん色々な活動で、地域性が出た活動が良かったんちゃうかなと思います。それぞれが自分たちの独自性を出されているというような発表だったと、言われてましたので、良いかと思います。

〔木田〕

どうもありがとうございます。そして、こちらのほうの女性の方に一つ、いかがですかね。

〔会場〕

青パトって言ってましたよね。パトロールのことですね。三田も青パトが出てますので、防犯には良いかなと思ひまして、その辺が良いということで、手を上げさせていただきました。

〔辻〕

ありがとうございました。今くらいの簡単なコメントで良いんですから、恥ずかしがらんと上げましょうね。それではBのチームから発表をお願いします。

◇ グループ発表（B）

〔B（発表：宝塚市長尾地区）〕

皆さん、こんにちは。宝塚市からやってきました、長尾地区まちづくり協議会の事務局をしております、清水と申します。つたないですが、Bグループの発表をさせていただきます。

本当に私もこの場にいらしていただいて、とても良いお話が聞けて、勉強になったなと思います。ふるさとへの愛着ということで、皆さんの言葉から、愛着が、ひしひしと愛着が沸いてくるのがわかりました。それぞれの地域の方、本当に基本的な活動はしっかりとされているようですので。ここで聞いた特徴的なお話だけをさせていただきたいと思います。

上郡町（梨ヶ原地区）のほうからは、農村地になるんですけど、小学校が閉校されたということで、やっぱり地域の活性化ということの問題に取り組まれて、西国街道の開発、整備をされて、都市部のほうから、芦屋市なんですけど、芦屋市のほうから「歩こう会」の方を招いて、交流が持っているということでした。

それから野菜、花の苗を販売されて、色々と今拠点に経費がかかりますので、そちらのほうに使ってらっしゃるということでした。

それと、神戸市長田区（志里池地区）からパソコン教室のお話なんですけど、パソコン教室と聞くと、普通にパソコン教えてはるんかなと思われがちですが、先生が長田中学校の生徒だそうです。それも登録制で20名ほどいらっしゃって、1、2年生が毎回6、7名、先生になって、生徒さんは70歳以上のおじいちゃん、おばあちゃん、だそうです。

すごく本当に良いお話だなと。これで世代間交流ができているということです。それでおじいちゃん、おばあちゃんたちもポスターが作れるそうです。すごいですね。今後のことも考えていらっしゃいます。できるようになった高齢者の皆さんは、また違う方の指導にもあたれるんじゃないかということで、どんどん上を目指していかれるみたいに聞きました。



それから、丹波市（葛野地区）からも、こちらも農村地域になりますので、都市部との交流を考えてらっしゃって、Iターンの受け入れをされています。22名ほど今いらっしゃって、農村部との架け橋になって、しいたけ栽培とか、貸し農園、借りられて農作物を作ってらっしゃるそうです。それと、そういう発信をされて、HPへのアクセス数っていうのも、とても多いそうです。それから尼崎市との交流もありまして、色々とそういった農作物の交流があるそうです。

加西市（宇仁地区）からも、こちらも農村部になるんですけども、朝市をされています。



立派な冊子を作られて、また皆さんもご覧になったかとは思いますが、こちらも、なぜか芦屋市との交流があるそうです。たまたま、ここで一緒に芦屋市という、場所がちょっと違いますけれども、芦屋の方は購買力があるのか、1時間ですぐ完売されるそうです。すごいです。売上也聞きましたけど、すごいです。

高齢者の方が芦屋市の方が多いですので、ご自宅に届けるということもされてるそうです。できれば1ヵ月に1回くらいしてもらったら、かなり儲かるのではないかと、まちが活性するのではないかとおられます。

それからここは地域の活性化、どこも考えてらっしゃるんですけども、小学校が統合されたんです。それで、小学校が新しい校舎建て替えられるということで、これはすごい住民の方の力ではないかなって私は感じました。来年の12月に完成するって、すごい力だなと思いました。



あと、それぞれが拠点施設を持っているんですけども、維持管理のことにも話が及びました。私の長尾地域なんですけど、立派な建物を県民交流広場事業の補助金で建てました。新築で。その話をしますと、うちは、ビニールハウスですってというお話いただいて、でもね、これ逆に、私はうらやましいなと思いました。そういう場所がある。うちは場所がないので、建てさせていただいたんですけど、本当にすごい場所があるっていうのもいいですし。

それから先ほど最初に言いましたように、皆さん、ふるさとに愛着を持たれてます。「交流したい」という都市部、神戸、一応私のところは都市部に入るかと思います。あと農村地域なんですけども、やっぱりそういうところと、交流してわかることっていうのがいっぱいあるので、これから交流したいねっていう話まで、及びましたので、ぜひ交流させていただきたいと思います。

今後とも、よろしく申し上げます。以上です。

〔辻〕

はい。ありがとうございます。都市と農村の交流というのはよくある話で、その中でも芦屋市が相手方ですか。ひょっとしたら金持ちばかりちゃうかと思うとるみたいですが。

それでは、今の話の中で、「いいね」というのがあったかどうか、「交流したい」というところがあったかどうか、上げていただきたいと思います。それではどうぞあげてください。段々減ってきましたね。これはもうしょうがない。誰でも当てましょう。

〔木田〕

いかがですか。

〔会場〕

まだ、まちづくり協議会そのものが立ち上げたばかりなので。これから地についての活動を展開していきたいということで。まだまだ農村との交流というのは、ものすごい先の話かなというふうに思います。

〔木田〕

はい。ありがとうございます。もう一人方。では、何かございますでしょうか。

〔会場〕

そうですね。どこもすごく個性があって、ここでお友達同士になって、どことも交流したいですし。芦屋って言われるとちょっと引けそうなんですけど、でも仲良くしたいなと思いますし。

さっき小学校が12月に建つって言われたんで、うちは再来年の3月に建つので、兄弟校になれたらいいなと思いました。ぜひ仲良くしてください。

〔木田〕

ありがとうございました。

〔辻〕

そうか、学校ができる時期が同じならば。

〔会場〕

3カ月違い。

〔辻〕

それでは最後になります。Aチームからお願いいたします。

◇ グループ発表（A）

〔Aグループ（発表：神戸市灘区成徳地区）〕

私は神戸市灘区の成徳ふれあいのまちづくりから、来させていただきました。このグループで皆さん、お話ししまして、ほとんどの地区で、私の地区は神戸市灘区なので、ちょっと若干違うんですけど、皆さん他の4つの地区の方、基本的にやっぱり、人口減と高齢化、この2つを危惧されておられまして、その辺への対策っていうものを、とられているように思いました。

一つはですね。例えば、伊丹市（神津地区）の空港の隣接地域でしたら、騒音被害で、やっぱり転出している方が多く、2割くらい転出されて、その空き地をどう利用するかっていうようなことで、ひょうたんを作ろうっていうことを考えはって、始めたとか。

また、吉川地区（三木市）のほうでしたら、地域でなんとかふれあい喫茶というようなものを開いて、地域間交流をやろうということで、最初はカレーやうどんやコーヒーというものだったんですけども、現在は、パンフレットから何から用意されておりまして、お弁当の配達までやってるといっくりに発展してきたというところもございます。

また、戸原（宍粟市）のコミュニティ推進委員会さんのほうでは、ふるさとへの愛着っていうものをどうするかっていうところに、歴史の同好会。そういうものを作りまして、昨年地域の歴史をまとめた「ふるさと戸原」っていうものを発刊されました。

今年度はその発刊されたものをベースに、ただ置いておくだけではなく、やはりそれを地域の方が使って利用して、発展させていく姿をとるのに、「ふるさと探訪」のガイドブックを制作されまして、ウォーキングですね、これを計画した。それが非常に好評だったので、今年度はあと2回やろうと。

要は、過疎地域なので、世代間の交流事業をやっぱり優先したいっていうことが一番にあります。あとは、その他、ゴミの日は110当番の事業とかに関しても、当番さんが監視するという形ではなく、これ非常に進んだ形で良いなと思ったのは、地域全体で見張りをすると。だから地域で誰か見つけた人が、どこかへ連絡するとか、110番するとか、そう

いうシステムで、当番立たなくても良いような仕組みを作っておられます。

それと、今度は篠山の古市地区です。そこのまちづくり協議会さんでは、ふるさとへの愛着という立場から、「見る識る見知る Map」というものを制作されまして、これを地域のコミュニティセンターで色んな文化事業をされているのを、全戸配布する広報委員会ですね、広報を作って全戸配布して、その文化事業を網羅して、地域全体への取り組みをアピールするというようなことをされております。

これ全て、やはり、人口減とか高齢化の中で、地域の交流をどうやって進めていくかということ、非常に皆さん危惧されていることかと思えます。

私どもの成徳地区（神戸市灘区）というのは、ちょっと立場が違うんですけども、灘区で、皆さんご存じやと思いますけど、神戸の震災の時、JR六甲道つぶれました。阪神高速道路倒れました、新在家の阪神の新在家車庫もつぶれました。それが全部私たちのところ。地域全壊のところなんですけど、本当に皆さんのおかげで復興できまして、JR六甲道の下に、非常に大きな公園もできました。

そういう中で、一番私たちが思うのは、復興はできたんですけど、非常に子どもたちにとって、ふるさと感というものを持ちにくい。まちなかですから、非常に持ちにくい。ですから私たちも小学校にビオトープつくったりとか、県が川改修する時に、親水公園つくっていただいたりとか、ただ、そういうものをつくってもらうということは、あと地域のみんなで管理しなければ継続できないですね。

そういうことで地域の皆さん、取り組んでいただくんですけども、ラッキーだったのは、学校も改修する時に、地域福祉センター、いわゆるコミュニティセンターですけれども、そういうものが学校新設するときに、一緒に併設された。それまで地域の高齢者の方と子どもたちとの交流というのは非常に難しかったんですけども、学校の中に地域福祉センターができたことによって、非常に世代間交流がしやすくなった。

つまり、まちと村の交流事業でも、子どもたちも一緒に交流事業に行こうと。そうすると、当然子どもたちが行くと、親御さん来てくれますよね。それとか、学校使って、地域のイベントをやる時PTAの方、PTAのOB、そして父親会、お父さんがやっぱり子どもたちに関わることをやってくれるんですね。そういう人たちの中から、次世代の地域活動の核になる人を、育てようと企んでおります。

なかなか昔のように、親子、地域で商売して、ずっとつながっているというお家はもうないんです。商売がダメやから、どうしてもサラリーマンになって、地域でつながるのが非常に難しくなっているんで、そういう子どもたちを軸にした中から、次世代のお世話係の人を見つけるということをやっております。

地域福祉センターが非常にありがたいのは、何でそういうことができるか、と言うと、学校の中、酒飲んだらあかんのです。けれど、地域福祉センター、学校ではありませんので、父親会なんかやったら第3土曜日、18時から集まります。校長さん初めびつくりしたんですけど。やっぱりビールも1杯くらい、むちゃむちゃ飲むもんじゃないですけど、福祉センター中やから違いますよ。予算も、教育委員会の予算ではできてませんから、そういう考え方で、皆話し合いして、ビールも飲み、また若いお父さんたちは、出席できない者でも、今、パソコン、インターネットとか、今そういうつなぎ方できますので。かなり、我々の年代よりも、情報は共有できるので、そういう形で新しいまちづくりをやっていこうと思っています。どうもありがとうございました。

〔辻〕

はい。ありがとうございました。なかなか、学校と併設した地域福祉センターっていっぱい。これはなかなか面白いですね。はい。それではもういっぺんやりましょう。は

い。上げようね、皆さん。それでは上げましょう！もっと勢いよく上げましょうね！ありがとう。それではインタビューを少しお願いします。

〔木田〕

ありがとうございます。手を上げていただいて。

〔会場〕

地域の歴史を知るとか、ふるさとのことを知るといのは、やはりその土地に愛着を持つことだと思います。それをまた子どもたちに伝えていくことも大切なことだなあと思います。

それと、最後の学校内に福祉センターができたということは、本当に多世代交流に大切やと思います。今、福祉施設と幼稚園との併設とか、色んな場面で持たれておりますよね。多世代交流に大切なことじゃないかなと思いました。

〔辻〕

ありがとうございます。

〔木田〕

貴重な意見ありがとうございました。もうお一人、どなたにしましょう。横を向いてらっしゃる方。すいませんけど、すてきなお父様ですね。

〔辻〕

私も先ほど当てましたね。

〔木田〕

あ、そうですか。前の方をじゃあ。

〔辻〕

美しい譲り合いが始まってますね。

〔木田〕

すいませんけど、一言いただいていいですか。

〔会場〕

あの、人口減による空き地の再利用、それから、もう一つは、世代間の交流に学校等を利用しているということは、なかなか喜ばしいことだと思います。

〔辻〕

はい。ありがとうございます。時間が超過しておりますので、早速終わりたいと思いますが、たくさんたくさん発表いただきまして、私が印象に残った言葉、少しここに書き出しました。

色々な活動の中で、地域の中でも地域ごとの多様性があるよね。それをいかに克服するかとか、多様性を活かすかというところがポイントだなというのがありました。

それから企業の参加、銀行が参加してくれましたよと。地域に住んでいる人だけではなく、企業も住民なんですよ。で、そういうところと一緒にやっていくというのは、な

かなか良いかなと思いますね。

そんな中で、地域には色々な資源があって、その地域の資源を活かしてきたんだよ。それぞれの資源があります。それを活かしていったんだよというのがありました。なおかつ、地域資源は使い尽くしたということやったら、新しい何か資源を開発したんだよということもありましたね。今までなかったものを作り出す、足湯なんかもなかったものを作り出したというそんな話。他にも新しい産品を作り出したというのがあったと思います。

そんな中で、交流系でいきますとやっぱり都市部と農村部との交流というのが、お互いに刺激があって、ええとこ取りできるんじゃないかなというようなことで、いくつかの地域ごとに、それぞれすでに交流が進んできておるといことが確認できましたね。

まだ、そういうパートナーが見つかっていないところは、例えば、こういうところで探し出すとか、先輩に聞いてみるとか、というようなことで、あそこは交流できそうだ。その隣とはできないかなとか、色々こうやっていったらどうかなと思います。

それから、最後の発表ですが、役所に色々つくってもらうのはええけども、つくってもらったら、その後、皆で、地域で管理していくということが発生するんだよ、これ当たり前ですよ。つくってもらっただけではだめで、管理まで行政にやってもらうわけにはいかない。

それと世代間交流ということも含めまして、学校といかに連携していくか、学校と連携することによって、地域の高齢者と子どもたちがまた新たな関係が生まれてきた。中学生にパソコン教えてもらった、すごいよね。なかなか今まで大人が子どもに教えるという発想やったんですが、逆になってきましたよね。なかなか面白いというのがありました。

そんなこんなです。色々あるんやけど、やっぱり皆悩んでるんやと。皆悩んでる。この悩みを共有すること、こういうアワードで共有して行って、共通すること、違うこと、お互いに学び合うというようなことが大事なんじゃないかなということ、今日ひしひしと感じました。

ということで、簡単に私なりに整理してみました。ありがとうございます。

これで終わりたいと思いますが、右手の奥のほうに交流コーナーというのがあります。今日、色々発表を聞いたり、展示を見たりして、ここと交流したいなと思われる方がおられましたら、あそこにお名刺を貼って頂くとか、連絡先をそれぞれの交流広場のところに貼っていただきますと、後ほどそちらのほうから連絡あるというようなことになりますので、この後の時間を使いまして、あちらに交流コーナーをお使いいただきたいなと思います。

ということで、今日の座談会、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

(敬称略)

〔金澤副知事：あいさつ〕

皆さん、こんにちは。本当に大勢の皆様が淡路から、そして県下一円から、このイベントにご参加をいただきまして、心から御礼を申し上げたいと思います。今年には特に軽トラックまで参加をいただきまして、例年以上に楽しい大会になったのではないかと思います。

県民交流広場、県下に829小学校区がありますけれども、現在までで700程度、これから開設予定も入れると750の地区で、県民交流広場事業が展開される予定です。率にすれば9割を超える小学校区で取り組みを進めていただくということで、今日お集まりの皆さんはじめ、大勢の地域の人たち、皆さんのご尽力で、この県民交流広場事業も本当に定着し、また伸びてきたなというふうに思います。

今、社会の中で色々な問題がたくさんあります。災害対応の問題もありますし、それから防犯、交通安全、あるいは高齢者をどう支えるか、子育て世代をどう支えるか、色々な課題が社会の中にあります。そういう課題に対応するために、国とか県とか、色々な仕組み、色々な制度でやらなければいけないこと、もちろんたくさんありますけれども、それだけではやはり本当に地域に住んでいる人たちが、心安らかに暮らすことができるような地域になるかという、これはやはりなかなか難しいものがあります。

恐らく、最後のところはその地域の中で、大勢の人たちが、地域に住む人たち自身が、お互いに支え合って、お互いに力を出し合って、その地域をつくっていく。そうした共助が必要だというのは、災害の世界に恐らく限らないだろうと思います。

今日集まっておいでの皆様方、そういう意味で、地域の先導的な役割をリーダーとして果たしていただいている皆さんです。そういう意識の下で、表彰式、アワードという形でやらせていただいています。ただ、表彰式というのは実は、優れたグループを誉めるというような意味合いでは必ずしもないのではないかと私は思っています。

むしろ、この全体のイベントの一つ、あくまでもイベントだというふうに思っただけならば、恐らく地域の中で、県民交流広場活動をしていただいている皆さん。自分がやっている活動が、評価に値するかどうかというの、日々の実践の中で、しっかりと手応えを持っていただいているはず。それが何よりの皆さんにとってのアワードじゃないかと思います。

別に県が表彰状という、何とか賞という紙を渡すかどうかで、その価値が計れるものではない、全くないと思

いますけれども、一つのイベントとして、皆さん一堂に会して、それぞれ自分たちの地域自慢をやって、皆で感心し合う。その中で、この表彰式も執り行わせていただきたいと思っております。

これからの兵庫県のそれぞれの地域をつくっていくための、大変大事な活動を担っていただいている皆さんに、心からの敬意を表させていただいて、これからも元気で活動をしていただけることを、私からお願いを申し上げまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

今日はどうもありがとうございました。

〔野崎委員長：講評1〕

皆さん、お待たせしました。各ブースを我々審査員、全員で回らせていただいて、まさに熱いアピールをたくさんいただきました。今、金澤副知事からもお話ありましたように、優劣をつけるということではないのですが、やはりアピールで、「おお！」と思うようなところが選ばれたということで、アピール力の評価みたいな形になってしまうかもしれません。

審査をした結果、結構、票が割れました。やはり人によって、受け取り方も違いますし、票が割れたんですけれども、その中で色々話し合いをして、5つの部門賞を決めさせていただきましたので、発表させていただきます。

審査員で色々議論した結果で、この5団体を選ばせていただきました。アピールがすごく良かったということかもしれません。他にもバランス良く、色々な所で点を取られている方もいらっしゃるのですが、とりあえず、今日はこの5団体というところで発表させていただきます。どうもありがとうございます。

〔原テツアキ県議会議員：激励の言葉〕

こんにちは。地元の県会議員の原テツアキでございます。淡路の方、兵庫県下各地から、この淡路島にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。

この県民交流広場、実に素晴らしい県の事業なわけありますけれども、今日来られている皆さん、お越しの皆さんは、責任者として色々大変だったんじゃないかなと、こういうふうに思う次第であります。

やはり人をリーダーするとか、あるいは人のため、世のためにやるっていうのは、かなり大変だと思います。先ほど賞をもらった方だけじゃなくて、それぞれの地域の方も、本当は全ての人にお渡ししたほうがいいんじゃないかなと、副知事によくお伝えしておきます

ので。

それと、これから地域を守るっていうのは、自分自身で守るということだと思います。829のうち、できてない地域がまだあるんです。淡路島にも一部ありましてね、その一つが私の地元なんです。いくら言っても、「いやいや、そんなんやっただって、5年で終わるんやろ。誰が責任とるんや」とかね。色々ありまして。それから、誰か手を挙げると、「あいつが手を挙げるからやらへん」とかね、なかなか難しいんです。まとめるというのは。

そんな中で、今日お越しの皆さんは、ほんと立派だと思います。別の賞でも県は差し上げるべきだと、こういうふうには私は思う次第であります。

これからは皆さん、地域の中心となって頑張ってくださいますように、ご祈念申し上げまして、地元の県会議員、原テツアキでございました。よろしくどうぞ。ありがとうございました。

【野崎委員長：講評2】

部門賞と奨励賞ということで分けてしまったんですけども、多くの印象的な活動に今年も出会うことができまして、本当に嬉しく思っております。今年の特徴ある活動としては、地域間の交流。地方部と都市部との交流をテーマにやっておられる所が、例年になく多かったかなと思えました。

それから、いくつか、全部ご紹介できないんですけど、部門賞をとりました、長田の志里池地区では、中学生と高齢者の教え合いっこと言うのでしょうか。パソコンを中学生が高齢者に教えて、その後、高齢者が中学生に昔遊んだぼっかんとか色んなこと教えると。特に、今、地域の中では小学生までは子どもたちは色んな地域の活動に参加してくれるんですけども、中学、高校生はなかなか参加してくれない。

そこで、地域で切れちゃうという大きな課題があるんですが、こういう形で、自分の得意を教える。その代わりに、また、おじいちゃんたちから教えてもらう。この活動は、結構色んな所にヒントになるのかなと思えました。

それから、播磨町の蓮池地区は、トークデーというイベントをやっていました。毎月19日の日、トークですから、10と9でトークデーというのを設けて、集まりをしています。地域の人が会議で集まって、何か決めるための会議って堅苦しいですよ。当日の議題にあがっていることだけ話し合っただけ、はい、終わりました。で終わっちゃうんですが、ここの方は、雑談のほうが大事やと。だから、雑談をするだけの日を決めようというので、トークデーというのを決められたそうです。結構、雑談の中から、次の活動、こういうふうにしたほうが良いんじゃないとか、こういう活

動も地域でやってみたいとか、雑談の中から色々新しい領域が生まれてきたというような話もあって、これも大きな参考になるのではないかと思います。

それから、ビジネス的に取り組まれている地域もいくつかありました。例えば、野菜を作って売っていかうとか、三木の吉川地区は、最初から運営補助が切れた時のことを考えて、最初から配食事業とか、色んな事業を有料で組み立てをして。しかも、ボランティアの方にも、今まだ時給500円くらいらしいですけど、ちゃんと時給でお払いをするっていう前提でスタートをして、もう少し条件を良くしていこうという努力を今されている所もあります。

ですから、初めは、いきなり大変な所から始める必要はないんですけど、そういうできる範囲のところで、運営補助がなくなった後も、継続していけるように、今から色んなビジネス的なことを入れながら、取り組まれている所が結構今回は見当たりました。もう事業が終わるのが目に見えているので、皆さん、せっぱ詰まって色々工夫されているのだと思います。

あとは、たくさんあるんですが、地域間交流であるとか、ビジネス的な視点を取り入れるとか、会合の持ち方、そういうので、色んな工夫をしている団体が今回も多く出展をされて、我々もそれを見ることができました。

問題はこれからなんです。先ほどから司会の方とか、色んな方がおっしゃっていますけども、この大きな交流の場を、うまく今後の会合に活かしていただければと思います。やはり、同じ目線で活動している者同士が情報交換したり、意見交換するのが一番効果的ですよ。そういう意味で、今日の発表なり、参加をぜひ活かしていただければと思います。

今年で4回目なんです。色んなことで工夫が見られて、活動の発表の内容も非常に多様になってきたというのが、今回の収穫だったんじゃないかと。

今後、第5回、第6回あるんですかね。それを楽しみにしていますので、簡単な、雑駁な講評ですけども、これで終わりたいと思います。

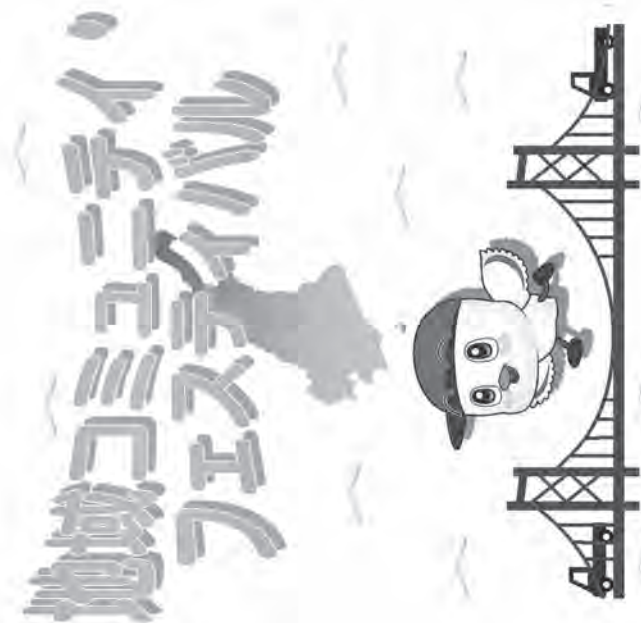
どうもありがとうございました。



《選考基準》

- ① **いきいき広場部門**
(地域性：地域の個性、地域資源を生かした取組が顕著である。)
- ② **なるほど広場部門**
(独創性：ユニークなアイデアや独創的な取組が顕著である。)
- ③ **みんなで広場部門**
(多様性：多くの住民や団体等を巻き込んだ取組、効果的な情報発信、地域を越えた連携が顕著である。)
- ④ **すくすく広場部門**
(継続性：新たなリーダーの養成や安定的な財源確保の工夫などの取組が顕著である。)
- ⑤ **しっかり広場部門**
(組織運営の堅実性：民主的な意思決定機構や幅広い住民の意見聴取など組織運営上の取組が顕著である)





地域コミュニティ・アワード2012

淡路地域交流フェスタ

県内各地から軽トラが
集まって市を開催します



日時：平成24年10月14日(日)10時~15時半
場所：兵庫県立淡路文化会館(入場無料・雨天決行)

主催

県民交流広場全県連絡協議会、兵庫県、兵庫県淡路県民局



タイムスケジュール

- 10:00 オープニングセレモニー※
開会あいさつ
- 12:20 ステージ発表 (野外ステージ)
【市えびす子ども囀り物教室(和太鼓演奏)】
【健康チア体操「ルミナス・スターズ」】
【国生み太鼓保存会】
- 13:00 地域再生プラウトフォーム形成事業 中間報告
野崎 隆一 氏 (NPO 神戸まちづくり研究所)
- 13:30 県民交流広場座談会※
テーマ：ふるさとへの愛着を深め、他地域との
交流を進めるには
司会者：辻 信一 氏 (麻理博緑地設計研究所)
会場：片岡 一 氏 (木田 薫 氏
(株) 明治 21 くまろ事務局長)
- 14:45 コミュニティ・アワード表彰式※
- 15:15 特産品・手作り加工品等抽選会

※手話通訳、要約筆記・磁気テープ席あり

会場全体マップ

野外ステージ
11:40~ 野掛け公演(第1部)
12:20~ アワードステージ
13:00~ わくわくステージ



地域コミュニティ・フェスティバルについて

花と緑に囲まれた「生涯学習・芸術文化活動の場 淡路文化会館」を舞台に、地域づくりには欠かせない「交流」と「地域コミュニティ」をキーワードに、地域づくりを携わっている方々のふれあいの空間を提供します。
広場の交流を目指した「地域コミュニティ・アワード2012」
淡路地域の広場が集う「淡路地域交流フェスタ」
の2つ交流イベントを融合させました。
すばらしいひとときをお過ごし下さい。

地域コミュニティ・アワード2012

県民交流広場を通じて培われた人と人とのつながりや活動を継承し、事業の成果を生かすために、全県規模での活動にたずさわっている方が活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場づくりとして、地域コミュニティ・アワード2012を開催します。

淡路地域交流フェスタ

淡路地域の県民交流広場実施団体相互の活動ノウハウや課題を共有するとともに、広場における今後の継続的発展的な取組への意欲を高め、地域活動のさらなる充実に支援します。

特産品・手作り加工品等提供団体一覧

- * 志里 地ふれあいのまちづくり協議会 (神戸市)
- * 井吹 東ふれあいのまちづくり協議会 (神戸市)
- * 今津 小学校区県民交流ひろば推進委員会 (西宮市)
- * 永丘 地区県民交流広場推進協議会 (加古川市)
- * 花園 校区連合協議会 (明石市)
- * 高砂 地区まちづくり協議会 (高砂市)
- * 三草 ふれあいの広場 (加東市)
- * 林田・伊勢 住民交流広場事業推進委員会 (姫路市)
- * 梨ヶ原 小学校区 GOGO プラン推進委員会 (上郡町)
- * 久斗山 農産加工組合 (新温泉町)
- * 八田 文化交流会 (新温泉町)
- * 港 地区区長会 (豊岡市)
- * 古市 地区まちづくり協議会 (篠山市)
- * 大山 地区郷づくり協議会 (篠山市)
- * 葛野 報徳自治振興会 (丹波市)
- * 郡家 地域交流広場推進委員会 (淡路市)
- * 飯屋 地区活性化協議会 (淡路市)
- * 瀬戸の瀬みず交流広場推進委員会 (南あわじ市)
- * 淡路 県民局



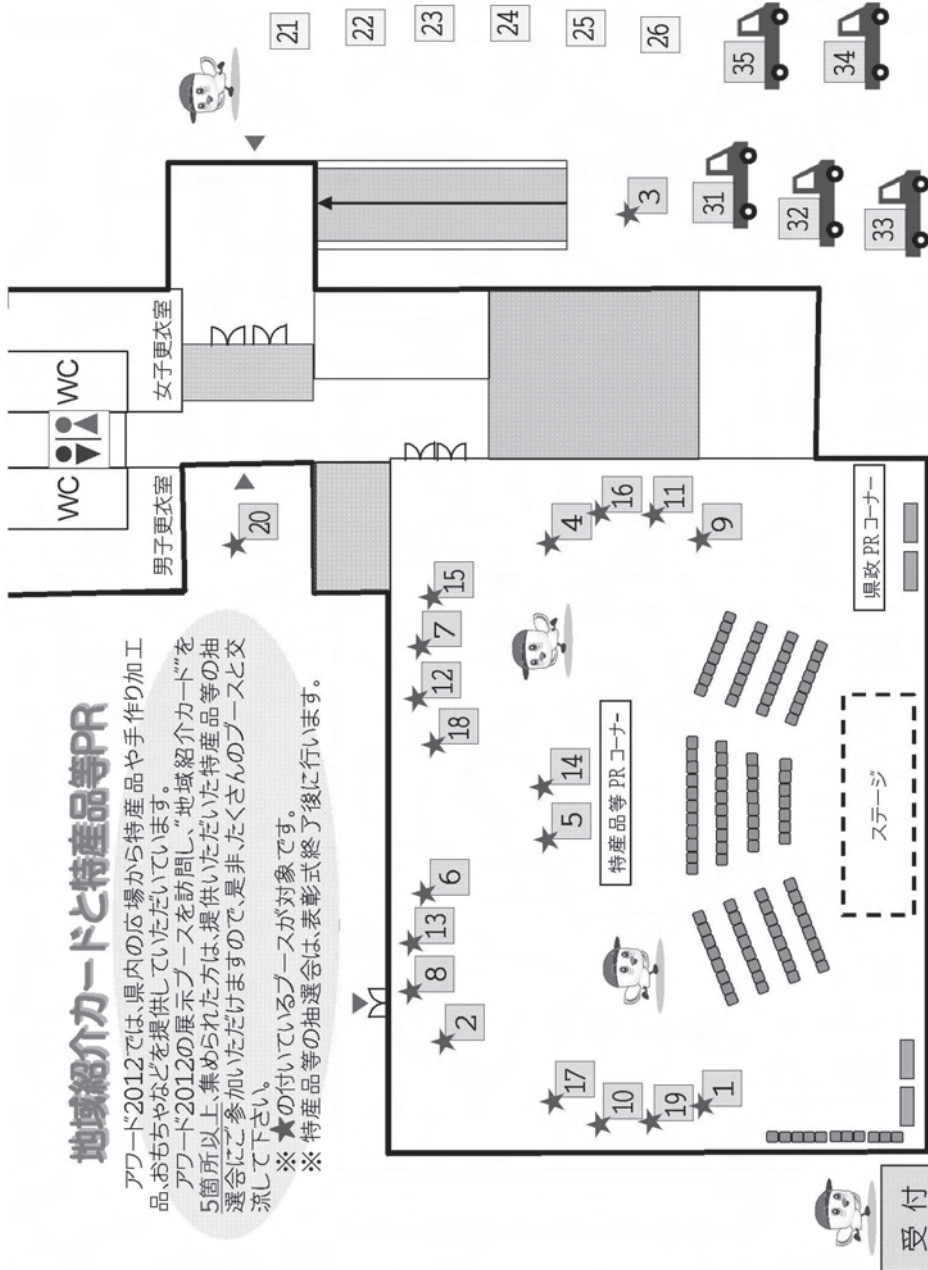
地域コミュニケーションアワード2012

- 1 神戸市成徳地区 バネル展示
健康ア体験
- 2 神戸市志里地区 バネル展示
木工手作の模型
おもちゃ展示
- 3 尼崎市長洲地区 バネル展示
手作りの物の
展示販売
- 4 西宮市生瀬地区 バネル展示
- 5 伊丹市神津地区 バネル展示
百成、千成ひょうたん
の販売
- 6 宝塚市長尾地区 バネル展示
花苗、コービー
の販売
- 7 高砂市高砂地区 バネル展示
高砂染めの
展示販売
- 8 播磨町運池地区 バネル展示
- 9 三木市吉川地区 バネル展示
コトコト等の販売
- 10 加西市字仁地区 バネル展示
- 11 姫路市野里地区 バネル展示
- 12 姫路市八幡地区 バネル展示
- 13 宍粟市戸原地区 バネル展示
- 14 上郡町梨ヶ原地区 バネル展示
- 15 養父市宿南地区 バネル展示
手作りの工芸品の
展示販売
- 16 香美町赤部地区 バネル展示
- 17 篠山市古市地区 バネル展示
住山牛蒡、
黒豆夜豆試食
- 18 丹波市葛野地区 バネル展示
卵、
黒豆等の販売
- 19 南あわじ市市野地区 バネル展示
ふるさと披露
会
- 20 淡路市郡家地区 バネル展示
国生み足湯、
国生み大披露

地域紹介カードと特産品等PR

アワード2012では、県内の広場から特産品や手作り加工品、おもちゃなどを提供していただいています。
アワード2012の展示ブースを訪問し、“地域紹介カード”を5箇所以上、集められた方は、提供いただいた特産品等の抽選会にご参加いただけますので、是非たくさんブースと交流して下さい。

※★の付いているブースが対象です。
※特産品等の抽選会は、表彰式終了後に行います。



- #### 軽トラ市
- 31 尼崎市長洲地区 尼崎市名産品
(尼崎八寶せんべい
尼の生醤油ほか)
 - 32 上郡町梨ヶ原地区 地域で獲れた五穀の
一つ黒豆(黒枝、黒付豆)
 - 33 新温泉町久斗山地区 大自然の中で育まれ
た山菜、産物でつく
った佃煮、トナリ餅ほか
 - 34 篠山市日置地区 篠山特産 地域でと
れた黒枝豆ほか
 - 35 淡路市野島地区 地域でとれた
野菜 ほか

- #### 淡路地域交流フェスタ
- 21 洲本市都志地区 健康ジュースの販売
 - 22 淡路市仁井地区 バネル展示、
焼き鳥の販売
 - 23 淡路市岩屋地区 バネル展示
 - 24 淡路市富島地区 バネル展示
 - 25 淡路市野島地区 バネル展示、
パンの販売
 - 26 南あわじ市西淡志知地区 バネル展示

1 神戸市灘区成徳（せいとく）地区 成徳ふれあいのまちづくり協議会

灘区役所周辺には震災後に新しくできたまちがあり、その外側には古くからのまちがあります。そのため新旧住民の交流が求められています。また、成徳小学校の児童数は、約1,000人になり、若い世代を地域の原動力に取り込み、指導者の発掘につながるような活動に取り組んでいます。

連絡先：078-851-5994

2 神戸市長田区志里池（しりいけ）地区 志里池ふれあいのまちづくり協議会

街の古い歴史と住工混在地域の特色を生かし、住民間の交流と安全・安心の美しいまちづくりに取り組んでいます。

文化交流による知識と技術の交流とコミュニケーション拡大を目指しています。

連絡先：078-651-2118

3 尼崎市長洲（ながす）地区 長洲地区県民交流広場推進委員会

地域内の8団体で構成する推進委員会を中心に活動しています。活動を大別すると、日常活動の5つの集いの会には児童から高齢者の人が参加して楽しんでいます。もう一つは青パトで地域内を定期的に防犯パトロールしています。

イベント活動では、「ふれあいフェスティバル」「長洲寄席」を年に各1回開催し、大勢の人に喜ばれています。

連絡先：06-6401-6241

4 西宮市生瀬（なまぜ）地区 生瀬ふれあい広場「くすのき」推進委員会

高齢化の進行と地理的に分散した当地域の課題を改善するために、地域間交流の場の提供、世代間のふれあいの機会の増進、および若い世代の子育ての支援を目標に、周辺地域からのボランティアの参加と地域の諸団体の支援により活動を進めています。

広場の活動は市の広報紙にも取り上げられ、認知度が高まっています。

連絡先：0797-26-6787

5 伊丹市神津（かみつ）地区 神津地区社会福祉協議会

毎年7月に子供中心のファミリースポーツを、8月最後の土曜日に神津夏祭り、11月にはふれあい交流広場を開催し、地域住民の交流と親睦を図るとともに、4月にひょうたん苗の植え付けに始まり秋には収穫と加工を、1月に作品展を実施しています。

連絡先：072-782-1084

6 宝塚市長尾（ながお）地区 長尾地区まちづくり協議会

伝統ある植木産業で知られた地域です。自治会を中心に構成団体を多数取り込み、3つの地区委員会（長尾・長尾南・丸橋小学校）と7つの部会が事業を展開。広報誌年4回9000部発行。子育て支援・高齢者のふれあい場づくり、地域の歴史・伝統・食文化の学習、多世代コンサート、ヘルスアップセミナー、防災訓練や子どもの見守り、他多くの活動に取り組んでいます。

連絡先：0797-88-1344

7 高砂市高砂（たかさご）地区 高砂地区まちづくり協議会

江戸時代から舟運で栄え発展してきた高砂町を、地域の各種団体と連携し、歴史や伝統文化、水辺空間などの地域資源を活用した潤いと賑わいのあるまちづくりを推進するとともに、活動を通して住民の元気なコミュニティづくりを促進することを目的として活動しています。

連絡先：079-443-5306

8 播磨町蓮池（はすいけ）地区 蓮池地域づくり推進協議会

『いつでも、誰でも、気軽に、ぶらっとお立ち寄りください！』地域の皆さんの居場所として、交流スペースやロビーを開放しています。

参画と協働によるコミュニティづくりを支援しています。また、地域の様々な情報もホームページ（<http://nozoekomisen.com/>）から発信しています。

連絡先：078-943-4825

9 三木市吉川（よかわ）地区 よかわふるさと交流推進協議会

よかわふるさと交流推進協議会では、吉川町公民館内「ふれあい広場」を拠点として、ふれあい喫茶「どんがりりん」（月～土曜日営業）を中心に「ふれあいと交流」の活動を展開しています。

連絡先：0794-72-1577

10 加西市宇仁（うに）地区 宇仁郷まちづくり協議会

当協議会は、平成20年に立ち上げ、地域の活性化の必要性に鑑み、拠点である小学校の存続は重要との信念から、宇仁小学校校舎建設を再度、加西市に要請。

5つの部会活動に加え、平成23年度春より「宇仁ふれあい館」で交流事業など、ふるさと再生に取り組んでいる。また、新たに「情報部会」と「油谷川ホテル再生プロジェクト」を立ち上げ広報活動の充実を図っています。

連絡先：090-1441-9816

11 姫路市野里（のざと）地区 野里広場づくり事業推進委員会

野里地区は姫路城の直ぐ北西に位置し、古くから開け、歴史と文化に恵まれた地域です。住民交流の面からは、社会環境の変化で、その希薄さが懸念される状況であり、全員参加を目指して「運動会」ほか各種の事業を実施しています。

さらに交流の輪を広げるため、平成 22 年に本事業を開始しました。その成果に期待しています。

連絡先：079-282-1091

13 宍粟市戸原（とほら）地区 戸原コミュニティ推進委員会

「美しい自然と共生する。元気で安全安心な住みよい町づくり」は、戸原地区住民の共通の願いです。

少子高齢化に直面している現在、世代間交流を図り、ゴミ 110 番、ふれあいの集い、ふれあい運動会等の各種イベント、歴史遺産の研究やふれあい探訪等、地域住民のコミュニティづくりを実施しています。

連絡先：0790-62-2372

15 養父市宿南（しゅくなみ）地区 宿南地区自治協議会

宿南地区では、世代間・住民間の交流を通じ、日頃からの助け合い・支え合いのコミュニティづくりをすすめ、安全・安心の暮らしやすい地域づくりを進めています。

連絡先：079-662-3400

17 篠山市古市（ふるいち）地区 古市地区まちづくり協議会

古市地区は、古来宿場・問屋が形成され、交通の要衝でもありました。明治以降は地域の中心にある小学校を核として文化が展開され、その素地が今日も受け継がれて、豊かな活動の基盤となっています。

現在は少子高齢化を迎えつつあるので、住民が参加し共に支え合える地域づくりのメニューを展開し、周知に努めています。

連絡先：079-595-1085

19 南あわじ市市（いち）地区 市えびすふれ愛メッセ

市地区は、淡路人形浄瑠璃発祥の地で、農業・酪農地域でもあり、3毛作農家や兼業農家が多いのが特徴です。

地域のお年寄りと子供たちが、活動を通じて郷土芸能の伝承や世代間交流の活動を重ねることに「えびす顔」の子供やお年寄りの顔が増えることを願って活動しています。

連絡先：0799-42-5562

12 姫路市八幡（やわた）地区 八幡地区推進委員会

八幡は明治 22 年町村制発足の際、地域の中心的存在の「誉田社」いわゆる八幡大神から名付けたもので、生まれて 120 年余、田畑の中に集落が点在していた地方村が、日本製鉄広畑製鉄所の開設、夢前川の河川改修事業による大幅な宅地開発で大きく変貌、人口も飛躍的に増大し、古くからの伝統伝承文化が急激に失われていく中で、「ふるさと再発見」と題して新旧住民の交流と親睦を深めています。

連絡先：079-236-1989

14 上郡町梨ヶ原（なしがはら）地区 梨ヶ原小学校区 G O G O フラン推進委員会

梨ヶ原・落地地区は、古代山陽道が通っており、かつては宿場として栄え、往事の住居跡や遺跡も多く発掘されています。しかし、平成 22 年に小学校が閉校となり、地域住民の交流が希薄化するのではという危惧がありました。そこで、地域のコミュニティづくりの一環として、地域推進委員会を組織し、5 つの部会を中心に地元住民が一体となって活動を行っています。

連絡先：0791-55-1075

16 香美町余部（あまるべ）地区 明日の余部を創る会

「明日の余部を創る会」では、余部鉄橋と共に 100 年を過ごしたという歴史を地区全体で認識し、その事を中心に地域の活性化をはかるように計画・活動を行ってきました。

また、「ふるさと教育」では、小学校・公民館と協力して活動しています。子育て関連では「ぼっぼクラブ」への活動支援、さらに公民館事業への協力・支援を行っています。

連絡先：0796-34-0415

18 丹波市葛野（かどの）地区 葛野報徳自治振興会

葛野地区は周囲を山に囲まれ、大きな災害もない安住の地域であり、水稻、花卉、野菜、果樹、黒ゴマ等の生産をしています。

また、市花のカタクリの群生地があり、秋のコスモまつりとともに地域資源を活かした観光に力を入れる一方、かどのの郷を拠点とするコミュニティ団体の参画による地域の活性化、福祉の増進に取り組んでいます。

連絡先：0795-82-4224

20 淡路市郡家（ぐんげ）地区 郡家地域交流広場

パルシェ香りの湯を利用して月 2 回、移動式足湯を実施、他の交流広場や各種イベントにも参加しています。

また、伊弉諾神宮等の観光客にも足湯を利用して頂き、商店街にも少しの賑わいをみせています。足湯の日にはふれあい喫茶、映画鑑賞会、童謡なども併せて利用していただき、地域間の交流の場となっています。

加えて、国生み太鼓を中心に、国生み紙芝居など、淡路市内はもとより、島内各地からも出演依頼が数多くあり、公演を実施しています。

連絡先：0799-85-2121



特産品・手作り加工品等 提供団体一覧



番号	地区名	地域推進委員会名 ◆連絡先電話番号	事業内容・提供品のPR	特産品等の提供内容
神戸-1	神戸市長田区 志里池地区	志里池ふれあいのまちづくり協議会 ◆078-651-9936	全戸参加型の文化行事の一環で、クラフト製作教室を開催しており、保育園・児童館等への手作り模型・おもちゃ等の提供を通じて、住民間の交流を図っています。	手作りおもちゃ(20) (ストラップ、パズル等)
神戸-2	神戸市西区 西神南地区	井吹東ふれあいのまちづくり協議会 ◆078-996-3569	毎月第1水曜日に手づくり喫茶を開催、一人暮らしの方を中心に高齢の方々の集いの場としてにぎわっています。又、折紙クラブ・東北折紙ボランティアクラブ等があり、センターの飾り・喫茶のおみやげカードの制作を行っています。今回は、このおみやげカードを持ってきました。	手作りカード(50)
阪神南	西宮市 今津地区	今津小学校区県民交流ひろば推進委員会 ◆0798-48-6434 (事務局 中原)	高齢者には、色彩感覚・バランス感覚で脳トレーニングとして、若い方々には、生活をエンジョイする一つの楽しみとしてランチョンマット・ティーマット・コースター・カレンダーなどを作成しています。	ティーマット(20)
東播磨	加古川市 氷丘地区	氷丘地区県民交流広場推進協議会 ◆079-421-1536	公民館を拠点に「いきいきサロン」で健康チェックやものづくり教室を実施。住民間の情報交換や交流活性化を図っています。	手芸ボール(5)
	明石市 花園地区	花園校区連合協議会 ◆090-3168-4005	地域住民が集いやすい駅前に拠点を新築。毎月多種多様な講座を実施しており、住民を主体に活発な活動が行われています。	手作り紙箱(7) カギ編みペットボトルケース(8)
	高砂市 高砂地区	高砂地区まちづくり協議会 ◆079-442-5797	古民家を活用した様々な行事を企画し、各種団体による拠点施設を活用、交流を図っています。	絵はがき(20)
北播磨-1	加東市 上福田地区	三草ふれあい広場 ◆090-2287-8173 (事務局 三村)	ひょうたん栽培農家がリーダーとなって同好者がひょうたんづくりを楽しみ、三草ふれあい広場などで展覧会をしています。	千成ひょうたん(20)
北播磨-2	加東市 上福田地区	三草ふれあい広場 ◆090-2287-8173 (事務局 三村)	布の端切れを利用したティッシュケースカバーにチャレンジしています。季節に合わせて、どこにでもある端切れを大判ハンカチ大に切り、ティッシュケースカバーを作ります。ちょっとした工夫で生活にうるおいが生まれますよ。	端切れを利用したティッシュケースカバー(10)
中播磨	姫路市 林田・伊勢地区	林田・伊勢住民交流広場事業推進委員会	竹細工などの“ものづくり”を通じて世代間・地域住民間の交流を深めています。	竹細工(竹トンボ)(20)
西播磨	上郡町 梨ヶ原地区	梨ヶ原小学校区GOGOプラン推進委員会 ◆0791-55-1075 (梨ヶ原公民館)	花いっぱい部会では、花の苗や野菜の苗を種から育成し、地域の皆さんに格安で販売している。さらに、花いっぱい部会の一環で、減反の田んぼを利用して、会員が丹精込めて黒豆を育成し、地産地消部会の料理研究会と連携し、地元の特産品づくりの研究をしています。その黒豆を今回提供します。	黒豆100gを袋に詰めたもの(20)
但馬-1	新温泉町 久斗山地区	久斗山農産加工組合 ◆0796-85-0030	廃校になった小学校を農産加工施設、拠点施設として整備し、大自然の中でとれた山菜、農産物を使用した特産品を開発、生産しています。	ふき(山ぶぎ)の佃煮(10)(100g・真空パック入り)
但馬-2	新温泉町 八田地区	八田文化交流会 ◆0796-93-0888	コミュニティセンターに食品加工施設「おふくろ工房」を整備し、地元農産物を使った特産品づくりを行うなど、地産地消と高齢者の生きがいづくりをめざしています。	なし(梨)ジャム(5)
但馬-3	豊岡市港地区	港地区区長会 ◆0796-28-3402	地域の史跡・伝承を題材に区民の手づくり「港かるた」や史跡ガイドマップを作り、3世代交流、県内外の方々との交流のツールとして活用しています。	港かるた・港かるた史跡めぐりマップ(セット)



特産品・手作り加工品等 提供団体一覧



番号	地区名	地域推進委員会名 ◆連絡先電話番号	事業内容・提供品のPR	特産品等の提供内容
丹波-1	篠山市 古市地区	古市地区まちづくり協議会 ◆079-595-1085	当協議会の生活環境部で活動している花作りサークルが、毎月、種蒔きや挿し芽、挿し木で花を育てています。地元の方々にも安価で販売しています。	花鉢(5)
丹波-2	篠山市 古市地区	古市地区まちづくり協議会 ◆079-595-1085	地元、住山集落で生産。柔らかくて香りの良い「住山ごぼう」として販売している特産品です。	住山ごぼう(5)
丹波-3	篠山市 大山地区	大山地区郷づくり協議会 ◆079-506-2419	「コミュニティキッチン結良里(ゆらり)」を開設し、地域の伝統料理「とふめし」を普及。このほど、レトルトパック商品を開発し、カタログ販売などで全国展開を計画しています。	とふめし(5)
丹波-4	丹波市 葛野地区	葛野報徳自治振興会 ◆0795-82-4224	交流施設「かどのの郷」の人気メニュー「たまごかけごはん」に使用されている地元で採れた新鮮でおいしい卵です。	たまごパック(5)
淡路-1	淡路市 郡家地区	郡家地域交流広場推進委員会 ◆0799-85-2121	旧一宮町の特産品である線香は、今や全国区？癒やしの香りを体験してください。	線香(5)
淡路-2	淡路市 仮屋地区	仮屋地区活性化協議会 ◆0799-74-2162	漁師町でもある淡路市仮屋において、重要な漁産物である海苔は、ご当地特産品として、発信しています。	海苔(20)
淡路-3	南あわじ市 福良地区	瀬戸の潮みず交流広場推進委員会 ◆0799-50-3048	淡路島の南端・福良で、今も昔ながらの製法でしかも手作りで作られており、南あわじ市の特産品として知られています。	手延べそうめん(5)
淡路-4	淡路市 河内地区	淡路県民局	「吹き戻しの里」からの贈り物。吹き戻し作成教室(有料)を実施しています。	吹き戻し(10)
淡路-5	淡路島内	淡路県民局	(株)日清製粉と淡路島観光協会が淡路の食に関する広報のため、コラボした商品です。	チキンラーメン+ゆるキャラ(30)



特産品等の交換会は表彰式終了後に行います。
★のブースと交流して、紹介カードを5枚以上集めてね。

提供にご協力いただいた広場の皆さま、ありがとうございました！



2 地域交流フェスタの実施概要

地域づくり活動、生涯学習、地域文化の振興など、これまでの生活創造センター、文教府・文化会館等での取組をベースに、県民局単位でも広場同士の交流を図り、相互活動のノウハウや課題を共有する地域交流フェスタを開催しました。

◆ 各地域における地域交流フェスタの実施内容

地域	日時・場所	事業名	合同で実施した事業
		実施内容	
全 県	10月14日(日) 10:00~15:30 県立淡路文化会館	地域コミュニティ・アワード2012	淡路地域交流フェスタ、いざなぎの丘元気っ子フェスティバル
		県民交流広場のパネル展示・ステージ発表、広場座談会、軽トラ市、特産品等PR	
神 戸	11月20日(火) 10:00~15:00 神戸市中央卸売市場	神戸地域県民交流フェスタ	県民交流広場フォローアップ事業「喫茶・クッキングで交流する県民交流広場の集い」
		「喫茶」「料理」の活動を実施している広場相互の情報交換・交流及びプロの指導による実習等を通じた活動のレベル・スキルアップ	
阪 神 南	11月29日(木) 13:15~15:15 アルカイクホール・ミニ	県民交流広場地域交流フェスタ	阪神南県民交流大会 阪神南青少年健全育成フォーラム
		県民交流広場のパネル展示、コミュニティ活動をテーマとした講演 ほか	
阪 神 北	11月10日(土)・11日(日) 10:00~17:00 アステ川西	阪神北地域交流フェスタ	きらっと☆阪神北オータムフェスタ地域見本市
		県民交流広場のパネルによる活動紹介	
東 播 磨	7月28日(土) 13:00~17:00 加古川総合庁舎	地域交流フェスタ	かこむ創造フェスタ2012
		県民交流広場のパネル展やブースでの販売等	
北 播 磨	11月4日(土) 13:30~16:30 小野市うるおい交流館エクラ	北はりま絆プロジェクト~家族の絆シンポジウム~	こころ豊かな美しい北播磨をめざす実践大会、北播磨地区自治研究会、北はりま絆プロジェクト交流ひろば大会
		実践活動発表、県民交流広場のパネル展示、野菜や特産品の販売ブース	
中 播 磨	11月10日(土)・11日(日) 10:00~16:00 大手前公園・家老屋敷跡公園及びその周辺	中播磨地域活動交流メッセ	ふれあいの祭典、姫路食博2012
		県民交流広場のパネル展示(68地区活動紹介)、各地域団体の活動発表、歴史語り、昔遊び体験等	

地域	日時・場所	事業名	合同で実施した事業
		実施内容	
西播磨	10月27日(土) 10:00~16:00 播磨科学公園都市芝生広場	西播磨地域交流フェスタ	西播磨オータムフェスタ in 光都2012、こころ豊かな西播磨実践交流大会
		広場実施団体による活動パネル展示、特産品の販売 ほか	
但馬	9月8日(土) 13:00~16:30 県立但馬文教府	但馬地域交流フェスタ2012	但馬生活創造情報プラザ「みてやま交流会」、はばタン消費者ネット但馬「活動交流会」
		県民交流広場の活動発表、パネル展示、但馬地域ネットワーク会議(グループのつどい、講話)、特産品等PR・販売	
丹波	10月28日(日) 10:00~16:00 丹波の森公苑	丹波地域交流フェスタ	丹波の森フェスティバル
		県民交流広場の活動展示、郷土料理・特産品の販売など	
淡路	10月14日(日) 10:00~15:30 県立淡路文化会館	淡路地域交流フェスタ	地域コミュニティ・アワード2012、いざなぎの丘元気っ子フェスティバル
		県民交流広場のパネル展示、特産品の販売など	

2-1 神戸地域県民交流フェスタ

◆日時：平成24年11月20日(火) 10:00~15:00

◆場所：中央市場の料理教室(神戸市兵庫区 神戸市中央卸売市場)

◆趣旨

県民交流広場実施団体が交流し意見交換することで、相互に課題や成果を共有し、広場の今後の継続的・発展的な活動を展開するための機会として開催(県民交流広場フォローアップ事業の一環として「喫茶・クッキングで交流する県民交流広場の集い」と一体的開催)

◆内容

「喫茶」「料理」の活動を実施している広場相互の情報交換・交流及びプロの指導による実習等を通じた活動のレベル・スキルアップを図った。

◇第1部：『高齢者にやさしい料理を学ぶ』 10:00~13:00

・講師によるレシピの提案・モデル食の実習・試食・交流等

【講師】坂本 廣子・サカモトキッチンスタジオ主宰



◇第2部：『おいしい珈琲のいれ方を学ぶ』 13:30~15:00

・講師によるコーヒーのいれ方の指導・実習・交流等

【講師】コーヒーアドバイザー・UCCコーヒーアカデミー



◇参加者数 62人

・広場：45人／14地区

・県関係者：11人

・講師等：6人

◆成果

- ・区域を越えた広場相互の情報交換・交流を通じて、活動のノウハウ・課題の共有化が図れた。
- ・多くの広場で取り組んでいる「喫茶」「料理」を取り上げることにより、直ちに日常の活動への活用が図れた。

2-2 阪神南地域 県民交流広場地域交流フェスタ

◆日時：平成24年11月29日(木) 13:15~15:15

◆場所：アルカイクホール・ミニ（尼崎市昭和通）

◆趣旨

阪神南地域の県民交流広場をはじめ、参画と協働により地域づくり活動を実践している方々やグループ等関係者が一堂に会して交流を図り、相互活動のノウハウや課題を共有する地域交流フェスタを開催し、県民交流広場の今後の継続的な取組への意欲を高め、活動充実に向けた機運の醸成を図る。

◆内容

県民交流広場や活動グループの関係者等、地域で活躍する人々が集い、それぞれの活動をパネルや作品展示で紹介することにより、情報交換や交流を図った。

また、阪神南地域の魅力を発信する取り組みを紹介する講演会を開催し、今後の地域づくり活動をさらに発展させるきっかけづくりを行った。

◇さわやかステージ

二胡奏者 李 亜輝 氏

中国の楽器、二胡の演奏によるオープニングコンサートを開催。人間の声に近いといわれる二胡の独特の音色が会場に心地よく響いた。

◇地域づくり講演会

【講師】 西本 佳子 氏（ボランティア団体『芦屋T i oクラブ』代表）

【演題】 「ふるさと阪神南の魅力再発見」～地域でいきいきおもしろく～

地域の人々とともに取り組まれている、阪神南地域の歴史や名所などを未来に残し、伝える活動について紹介。多彩な映像を交えた講演を通じて、阪神南地域の魅力を再発見することができた。



◇県民交流広場のパネル・作品展示

管内13広場の取り組みについて、写真等を交えたパネルや、広場活動で作成した手作り作品の展示を通じて紹介した。広場同士の情報交換の場となるとともに、多くの参加者に県民交流広場をPRし、広場活動の取組みに関心を持ってもらう良い機会となった。



◆成果

- ・パネル展示等を通じて県民交流広場の取り組みを県民に広く周知することができた。
- ・3つのイベント（「県民交流大会」「青少年健全育成フォーラム」「県民交流広場地域交流フェスタ」）を合同開催することにより、様々な分野で活動する個人やグループの交流を図ることができた。

2-3 阪神北地域交流フェスタ

◆日時：平成24年11月10日(土)~11日(日) 10:00~17:00

◆場所：アステ川西6階:アステホール・1階:びいぷう広場(川西市栄町)

◆趣旨

阪神北地域の県民交流広場をはじめ、子育てや環境、文化、生涯学習など様々な分野で活動する地域団体等の交流を図ることにより、活動のノウハウや課題を共有し、広場における今後の継続的な取組への意欲を高め、活動の充実を支援することを目的とする。

◆内容

当日は「きらっと☆阪神北オータムフェスタ」(会場：アステ川西6階アステホール及びアステ川西1階びいぷう広場)と合同開催し、両会場では約11,000人の来場者があった。

アステ川西・6階アステホールではHANKI TAときめきステージとして“源氏のふるさと川西”歴史セミナー、こども文化フェスタ、地域見本市さわやかオータムフェスタ、スマイルフェスタなどの多彩な内容の催し物や文化団体等によるステージ発表が開催されたほか、1階びいぷう広場の地域見本市では、まちづくり協議会やコミュニティ推進協議会等県民交流広場実施団体をはじめとする地域で活動する団体など55団体によるブースの出展があり、日頃の活動の成果を発表するとともに交流を深めた。



【県民交流広場出展地域】

伊丹市 有岡地区まちづくり協議会

宝塚市 中山台コミュニティ緑化環境対策部

西谷地区まちづくり協議会(文化・研修部会)

川西市 多田東小学校区コミュニティ推進協議会

けやき坂小学校区コミュニティ推進協議会

◆成果

- ・「きらっと☆阪神北オータムフェスタ」と合同開催したことにより、様々な分野で活動する地域団体等との情報交換ができ交流や連携が深まった。
- ・開催場所が駅前の商業施設の中ということもあり、県民交流広場を多くの一般県民に周知することができた。

2-4 東播磨地域県民交流フェスタ

◆日時：平成24年7月28日(土) 13:00~17:00

◆場所：加古川総合庁舎 東播磨生活創造センター(かこむ)

(加古川市加古川町)

◆趣旨

県民交流広場の活動を紹介したパネルを展示し、各広場の活動や情報を共有しました。また、「かこむ」の情報発信事業、コーディネート事業など、さまざまなジャンルの活動を、広く地域の皆さんに知ってもらい楽しんでもらえる機会として実施しました。

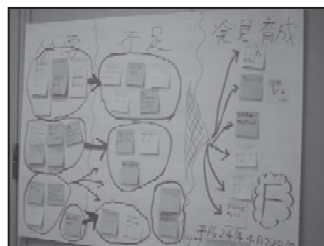
◆内容

平成24年7月28日(土)、東播磨生活創造センター「かこむ」(加古川総合庁舎)で「東播磨地域交流フェスタ」を「かこむ創造フェスタ」と同時開催しました。各地区の県民交流広場を紹介したパネル展示やブースでの物品販売に加えて、「かこむ」の登録団体による活動発表や作品展示、体験教室等を開催し、多くの来場者がありました。

また、4月22日(日)には、東播磨地域づくり交流会を開催しました。24年度は県民交流広場だけでなく地域活動応援事業の団体とともに、コミュニティ応援隊の辻信一先生を迎え「地域・団体の人材育成を考える」をテーマに、「必要な人材」「不足している人材」「どのように見つけるか、育てるか」について、グループ討論と発表を行いました。



【全広場のパネルを展示】



【かこむ創造フェスタの様子】



【東播磨地域づくり交流会の様子】

◆成果

- ・全広場のパネル展示を通して各県民交流広場の取組を参加された県民の方々に広く知っていただくことができました。
- ・他の県民交流広場やかこむ登録団体との交流が深まったほか、広場運営にあたっての情報交換や、他地域の活動を参考にするなど、これからの活動に向けて多くの収穫を得ることができました。

2-5 北播磨地域県民交流フェスタ

◆日時：平成24年11月4日(日) 13:30~16:30

◆場所：小野市うるおい交流館 エクラ (小野市中島町)

◆趣旨

社会の成熟化や少子高齢化が進むなか、誰もがいきいきと暮らせる元気で安心な地域コミュニティを実現するため、参画と協働のもと多様な主体がネットワークを形成しながら、すべての人々にこころ豊かにいきる感動を与える「美しい兵庫」をめざした取り組みを展開する必要がある。

このため、地域づくりに貢献された方々、地域ボランティア活動に功績があった方々を顕彰するとともに、実践活動団体をはじめ、自治会関係者や、ボランティア等が交流し、絆を深めることにより、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを推進する。

◆内容

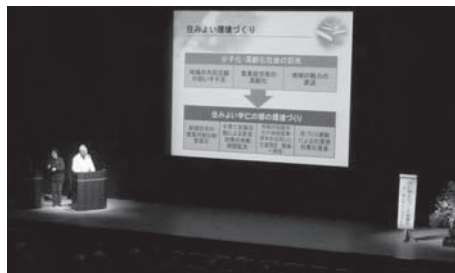
◇さわやかステージ

◇表彰式 (兵庫県自治賞、こうのとり賞、くすのき賞、のじぎく賞)

家族川柳コンテスト入賞者表彰式

◇実践活動発表

鵜野中町老人クラブ、宇仁郷まちづくり協議会



◇講演 ラジオ・パーソナリティ 谷 五郎 氏

「家族のきずな 地域のきずな」

◇その他 県民交流広場の活動パネル展示 全地区

活動ブース展示 4地区

野菜や特産品の販売 5地区



◆成果

多くの方の参加を得、「こころ豊かな美しい北播磨」の実現をめざす地域づくり活動の推進を図るとともに、自治会関係者や、ボランティア等との交流で、目的である北播磨の「家族の絆」「地域の絆」「生活(くらし)の絆」を深める良き大会であった。

2-6 中播磨地域活動交流メッセ

◆日時：平成24年11月10日(土)、11日(日) 10:00~16:00

◆場所：大手前公園・家老屋敷公園及びその周辺（姫路市本町）

◆趣旨

中播磨地域の地域団体が、先導的な活動を行っている他団体の活動を知り、協働して活動するきっかけをつくるとともに、地域の活動と家庭をつなぎ、より一層、地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、地域団体の実践活動発表及び地域住民同士の交流の場となるイベントを実施。

◆内容

元気なコミュニティづくりに取り組む地域団体等の活動発表・情報交換を通じて、地域づくり活動や地域の魅力を発信。

◇県民交流広場活動パネル展

中播磨県民局管内の全県民交流広場実施地区の活動について、パネル展示で紹介。

◇中播磨ビジョン委員会（グループ活動発表ほか）

吹き矢体験、健康・安全安心グッズの展示、サッカーゴール入れ、絵本の読み聞かせ他、工作と赤米、生ごみ処理機、蛍の飼育の展示等。

◇中播磨生活創造活動グループ（活動発表）

生活創造活動グループなどによる、はりまゆかりの紙芝居や歴史語り、モニター放映など。

◇こころ豊かな人づくり 500人委員中播磨OB会

昔遊び体験。活動パネル展示。

◇中播磨地域婦人会連絡会「おいしいごはんを食べよう県民運動！」

炊き込みごはん等の無料配布。



【吹き矢体験】



【歴史語り】



【県民交流広場パネル展示】



【わら細工】



【折り紙教室】

◆成果

「中播磨ふれあいフェスティバル」及び「姫路食博2012」と同時開催したことにより、幅広い年齢層からの参加者があり、多彩なイベントを通して、地域団体、住民同士、世代間交流を図ることができた。また、パネル展示等を通して、管内の県民交流広場の活動について、広くPRできた。

2-7 西播磨地域県民交流フェスタ

◆日時：平成24年10月27日(土) 10:00~16:00

◆場所：播磨科学公園都市 芝生広場（上郡町光都）

◆趣旨

県民交流広場や各種団体等が集い、日頃の活動の成果を発信することで、活動のノウハウや課題を共有するとともに、ネットワークづくりの推進、今後の活力ある地域づくりの手法を学ぶ場とするため、西播磨地域の活性化と連携・交流の促進を目的とした「西播磨オータムフェスタ in 光都 2012」の会場で、地域づくり団体の活動発表の場である、「こころ豊かな西播磨実践交流大会」と同時開催した。

◆内容

先導的な取り組みを行っている県民交流広場実施3団体が、日頃の活動の成果を展示発表。

◇『戸原コミュニティ推進委員会』～宍粟市戸原地区～

- ふれあい祭り、ふれあい探訪、防犯・防災研修会等の活動をパネル展示等で紹介。
- 郷土歴史研究会を立ち上げ、文章、レイアウト、写真撮影、イラストマップ等全て地域住民で作成した郷土史「ふるさと戸原」の展示。
- 活動内容の啓発に関するパンフレット等の展示及び配布。



◇『梨ヶ原小学校区 GOGO プラン推進委員会』～上郡町梨ヶ原地区～

- 歴史、高齢者、交流、花いっぱい、地産地消の5部会の活動をパネル展示等で紹介。
- 西国街道、ふるさと梨ヶ原・落地散策マップの展示。
- 特産品（黒豆・枝豆）の販売



◇『江川地域づくり協議会』～佐用町江川地区～

- 特産品「江川栗」を栗焼き機で焼いた「ポン栗」の実演販売を実施。



◆成果

約1万2千人の来場者があった「西播磨オータムフェスタ in 光都 2012」の会場で開催したことにより、県民交流広場の趣旨や取り組みを幅広く多くの人に周知することができた。

また、同時開催の実践交流大会に参加した様々な分野で活動する地域団体やグループの活動事例に触れ、意見交換することにより、ネットワークづくりとともに、今後の活動展開への意欲が高まった。

2-8 但馬地域交流フェスタ2012

◆日時：平成24年9月8日(土) 13:00~16:30

◆場所：但馬文教府（豊岡市妙楽寺）

◆趣旨

但馬地域の県民交流広場、生活創造活動グループ、はばタン消費者ネット但馬及び一般県民との交流を通して、県民交流広場事業はじめとする生活創造活動への参画と協働の意識を高めるとともに、双方向の交流を促進し、生活創造活動の広がりや組織・活動基盤の充実をめざす。

◆内容

◇県民交流広場但馬地域ネットワーク会議

県民交流広場2地区（宿南地区、余部地区）の取組事例発表と「人と地域の輪を広げよう」をテーマに『耕但会』代表 田中 香代子 氏による講話を実施。

（参加：180名）

◇県民交流広場活動紹介パネル展

県民交流広場4地区の取組事例を紹介。

◇はばタン消費者ネット但馬「活動交流会」

消費者問題の啓発と取組事例などをパネルで紹介。活動発表と手づくりの小物、生活雑貨、クッキー等のお菓子をPR・販売。（参加：4団体）

◇県民交流広場「特産加工品PR・物販展」

地産地消に取り組む県民交流広場2地区（八田地区、久斗山地区）による特産加工品のPR・販売。

◇グループのつどい&こどもひろば



【グループパフォーマンス】

但馬生活創造情報プラザ登録グループによる日頃の取組や成果を披露する「パフォーマンス発表会」、みやま交流会の主催などグループ支援活動に取り組む但馬生活創造応援隊が子育て支援グループとともに、子どもを対象に楽器演奏、紙芝居や創作体験教室（ペットボトル風鈴づくりなど）を実施。（参加：7団体）



【県民交流広場の取組事例発表】



【消費者ネット物販コーナー】

◆成果

取組事例の発表やパネル展示、特産加工品のPR・販売を通して、県民交流広場の取組を広く周知することができた。

また、フェスタを機に、県民交流広場をはじめ生活創造活動に取り組む団体・グループ間の相互理解が深まり、双方向の交流が進むなどの成果が表れつつあり、地域における生活創造活動の広がりや組織・活動基盤の充実強化につながってきている。

2-9 丹波地域交流フェスタ

◆日時：平成24年10月28日(日) 10:00~16:00

◆場所：丹波の森公苑（丹波市柏原町）

◆趣旨

住民主体の活動と交流により丹波の森づくりが幅広く展開されている生活創造活動の成果や交流の場である「丹波の森フェスティバル2012」にあわせて開催し、来場者に県民交流広場の取り組みを紹介するとともに、県民交流広場同士の交流を図り、相互に活動のノウハウや課題を共有する。

◆内容

◇県民交流広場活動展示

丹波地域の県民交流広場の活動を紹介した。

◇「都市・農村交流ネットワーク会議」の開催

都市・農村交流に取り組む県民交流広場等が参加し、実施状況等を発表した。

◇スキルアップ研修会の開催

講師に元NHKアナウンサーの村上信夫氏を迎え、講演会を開催した。

◇県民交流広場テントブースへの出展

丹波の森フェスティバル屋台コーナーにて、雲部地区、西紀北地区、葛野地区が地域色豊かな料理や特産品を販売した。

◇ふれあいの場づくり

「ふれあいステージ」を地域で活躍している若者や文化サークルの発表の場として設置し運営した。



【都市農村ネットワーク会議】



【スキルアップ研修会】



【特産品販売】



【ふれあいステージ】

◆成果

- ・丹波及び阪神地域の県民交流広場が参加する「都市・農村交流ネットワーク会議」では、先進地域の取り組みや交流事業を継続していくための課題や工夫について情報を共有した。
- ・丹波地域の県民交流広場における課題について検討するため、県民交流広場関係者等、地域づくりに関心を持つ参加者を対象として実施したスキルアップ研修では、次の世代に受け継いでいくことの大切さや世代間の交流のきっかけづくりなどについて学習した。
- ・柏原町新井地区と県民交流広場同士の都市との交流に取り組んでいる神戸市灘区岩屋地区の交流グループが参加し、地域間交流の推進とともに丹波地域の魅力を広く発信することができた。
- ・活動展示、屋台コーナー、ふれあいステージ等を通じて、各県民交流広場の取り組みを一般の県民に周知することができた。

2-10 淡路地域県民交流フェスタ

◆日時：平成24年10月14日(日) 10:00~15:30

◆場所：県立淡路文化会館（淡路市多賀）

◆趣旨

淡路地域の県民交流広場同士の交流を図り、相互に活動のノウハウや課題を共有し、今後の継続的な取組への意欲を高め、活動の充実を図り、更に他の地域づくり活動団体、生涯学習団体との交流を通じて広場活動の活性化、情報発信を図ることを目的として実施。

◆内容

兵庫県立淡路文化会館において、地域づくり活動団体や生涯学習の団体等が、子どもの健全育成を目的としたプログラム等を準備し開催する「いざなぎの丘元気っ子フェスティバル」、及び全県の「地域コミュニティ・アワード2012」と合同開催。

当日は、焼き鳥、焼きそば、わた菓子などの飲食・販売ブース（12ブース）、貝殻や小石、竹や発砲トレーなどを使ったものづくり、バルーンアートや押し花、紙芝居、スポーツチャレンジゲームなどわくわく体験ブース（38ブース）の出展がありました。

県民交流広場からは、淡路地域の6広場が出展し、活動パネルの展示、野菜・物産の販売。手作りジュース、焼き鳥など飲食物のふるまいなど、特色あるブースを展開しました。広場秋晴れのもと、約3,500人の参加があり、例年にも増して非常に賑わいました。



【県民交流広場ブース風景】



【いざなぎの丘元気っ子フェスティバル風景】

◆成果

本年においては、2つのイベントとの共同開催ということもあり、幼児から高齢者まで、様々な年齢層のみならず、淡路地域以外の他の地域の人々とも交流を図ることができた。それにより、交流広場がいろいろな絆を大切にし、地域の夢を形にするため様々な活動を展開していること、また、県内各地で広場活動が積極的に行われていることなどが、参加された多くの方々に広く周知・広報することができた。

3 全県連絡協議会及び地域ネットワーク会議

〔設立の趣旨〕

平成 21 年度には、県民交流広場の実施地区が全校区の過半数となり、地域を越えた交流に対する機運が高まってきたことから、県民局ごとにすべての広場が参画し、広場運営の相談、情報交換ができる「地域ネットワーク会議」を設置するとともに、その代表者が参集して、成果の共有や共通課題の検討、広場全体の交流の場づくりを進める「全県連絡協議会」を設置しました。

なお、「地域コミュニティ・アワード」は、全県連絡協議会の企画、協議に基づき、全県レベルで広場が相互に活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場づくりとして実施しています。

〔全県連絡協議会の実施状況〕

開催日・場 所	内 容
平成 24 年 8 月 17 日 県立淡路文化会館	《平成 24 年度第 1 回全県連絡協議会》 地域コミュニティ・アワード 2012 の開催に向けた意見交換を行うとともに、地域コミュニティ活性化のための取組事例集の発行にあたっての意見交換を行った。
平成 24 年 10 月 17 日 県立淡路文化会館	《地域コミュニティ・アワード 2012》 第 1 章及び第 2 章参照
平成 25 年 3 月 12 日 兵庫県民会館	《平成 24 年度第 2 回全県連絡協議会》 地域コミュニティ・アワード 2012 の成果や課題について意見交換を行い、今後の県民交流広場の展開について協議を行うとともに、次回の地域コミュニティ・アワードにあたっての意見交換を行った。 また、今後の広場活動の充実について、コミュニティ応援隊アドバイザーグループからの意見等を交えながら議論を進めた。

◆ 24年度 地域ネットワーク会議の開催状況

県民局名・日時	場 所 ・ 主 催	テ ー マ ・ 概 要
神戸 11/20(火) 10:00～ 15:00	【場所】神戸市中央 卸売市場 【主催】神戸県民局	《神戸地域県民交流広場ネットワーク交流会》 【テーマ】「喫茶・クッキングで交流する県民交流広場の集い」 【概要】「喫茶」「料理」の実習を通じた広場相互の情報交換・交流 【参加者数】14地区・45人
阪神南 11/16(金) 10:00～ 11:30	【場所】兵庫県尼崎 総合庁舎 【主催】阪神南県民局	《阪神南地域県民交流広場ネットワーク会議》 【テーマ】助成期間終了後の広場活動の展開について 【概要】助成期間終了後の広場運営のノウハウを共有するとともに、広場間の広域的なネットワーク構築を支援するため、助成期間終了後も活発に活動を展開している2つの広場を招き、以下のとおり会議を開催した。 ①「県民交流広場実践報告（尼崎今北地区、伊丹市稲野地区）」 ②「意見交換会」
阪神北 11/10(土) 11/11(日) 10:00～ 17:00	【場所】アステ川西 【主催】阪神北県民局	《県民交流広場交流会》 【テーマ】様々な分野の地域団体との交流を図る 【概要】まちづくり協議会をはじめ地域55団体が参加
東播磨 4/22(日) 15:00～ 16:30	【場所】加古川総合庁舎 【主催】東播磨県民局、 こころ豊かな美しい東播磨推進会議、 こころ豊かな人づくり500人委員	《東播磨地域づくり交流会》 【テーマ】「地域・団体の人材育成を考える」 【概要】コミュニティ応援隊の辻信一先生による進行のもと、少人数のグループに分かれ、「必要な人材」「不足している人材」「どのようにして見つけるか、育てるか」の3つの項目について意見交換を行い、グループごとに発表を行った。
北播磨 11/4(日) 13:00～ 16:30	【場所】小野市うるおい 交流館 エクラ 【主催】北播磨県民局 ほか	《県民交流ひろば大会》 【テーマ】参画と協働のもと北播磨の「家族の絆」「地域の絆」「生活（くらし）の絆」を深める。 【概要】県民交流広場実践活動発表、パネル展示、講演等を実施し、広場実施団体と自治会関係者やボランティア等との交流を行なった。

県民局名・日時	場 所 ・ 主 催	テ ー マ ・ 概 要
中播磨 11/10(土) 11/11(日) 10:00～ 16:00	【場所】 大手前公園・家老屋敷跡公園及びその周辺 【主催】 中播磨県民局ほか	《中播磨地域活動交流メッセ》 【テーマ】 銀の馬車道でつなぐ人と地域の輪 【概要】 県民交流広場を紹介するパネル展(68地区)や、各地域団体の活動発表等を通して、県民交流広場事業について広くPRした。
西播磨 2/26(火) 13:30～ 16:00	【場所】 西播磨文化会館 【主催】 西播磨県民局 県民室、 西播磨文化会館	《西播磨地域ネットワーク会議》 【テーマ】 地域の課題解決に向けて － 県民交流広場の課題の共有と解決に向けた方策について－ 【概要】 県民交流広場事業に取り組む地区が一堂に会し、相互に活動のノウハウや課題を共有することによって、広場における今後の継続的な取組への意欲を高めるとともに、課題の解決や活動の充実が図れるよう、先進地の活動事例発表やCAT（コミュニティ応援隊）アドバイザーの講義などを内容とする研修・交流会を開催する。
但馬 9/8(土) 13:00～ 16:30	【場所】 但馬文教府 【主催】 但馬地域交流フェスタ 2012 実行委員会	《県民交流広場但馬地域ネットワーク会議》 【テーマ】 生活創造活動の広がり 但馬の元気をめざして 【概要】 生活創造活動グループ、はばタン消費者ネット但馬とともに、双方向の交流をめざし、県民交流広場活動の発表、パネル展示、「人と地域の輪を広げよう」をテーマに講話を実施。
丹波 10/28(日) 10:30～ 12:00	【場所】 丹波の森公苑 【主催】 丹波県民局	《丹波地域ネットワーク会議》 【テーマ】 県民交流広場同士の都市・農村交流 【概要】 特徴的な活動事例紹介の他、地区の活動状況と課題について提案助言を得るとともに、参加広場から自由に意見を発表してもらい意見交換を行った。
淡路 6/30(土) 13:30～ 16:30	【場所】 県立淡路文化会館 【主催】 (公財) 兵庫県生きがい創造協会 淡路文化会館	《県民交流広場等ネットワーク化支援事業 淡路地域ネットワーク会議》 【テーマ】 広場の交流と相互ネットワークの構築 【概要】 淡路島内の県民交流広場担当者が一堂に会し、日頃の活動状況を発表する機会を設け、広場相互のネットワーク化の推進と広場活動の充実と発展に資する。

4 コミュニティ応援隊(CAT)の派遣

〔コミュニティ応援隊とは〕

県民交流広場事業の効果的な活用や、コミュニティの様々な課題解決を応援するため、県が学識者や専門家、モデル地域リーダーらに協力を求めて設置したコミュニティ応援隊（CAT）の中から、地域のニーズに沿った者を派遣します。

特に、県民交流広場を通じたコミュニティづくりにあたっては、地域の機運を盛り上げ、多くの住民の関心と参加を高めることが大切です。それには、プラン検討段階で、住民が集まり、ワイワイガヤガヤと今後のコミュニティのあり方、そのための取り組み、そして広場の整備内容といった意見を出し合っって共有していく「ワークショップ」が効果的です。このワークショップの進行を手伝う専門家も、CATから派遣します。

〔コミュニティ応援隊の申し込みの流れ〕

派遣を求める地域の方は、県民局県民課、文化会館、消費生活センター等（県民局圏域によって窓口が異なります）に申し込みます。

窓口機関は、CAT登録者（アドバイザーリスト）を示しながら、地域のニーズにふさわしいアドバイザーを助言し、希望にもとづいて双方をつなぎます。

コミュニティ応援隊のメンバーが、例えば、こんな課題、こんな悩みの解決をお手伝いします！

- ◎ コミュニティの大切さをみんなに理解してもらいたい！
- ◎ できるだけたくさんの住民に参加してもらって、地域の課題やニーズに即した事業プランをつくりたい！
- ◎ いろいろな意見が出て、県民交流広場の活用方向がまとまらない！
- ◎ 先行して県民交流広場に取り組んだ地域の体験から学びたい！
- ◎ コミュニティのホームページを立ち上げたいので助言がほしい 等々

県民局（県民課、文化会館、消費生活センター等）にお問い合わせください。（p72 参照）



◎あらかじめ登録されたコミュニティ応援隊メンバーの中から、地域の依頼内容にふさわしい講師をご紹介します。



◎講師に依頼内容を伝え、当日の進め方を調整するとともに、日程を調整します。（県民局もお手伝いします）



◎講師を迎え、学習会やワークショップを実施！！
◎簡単なアンケート調査にご協力ください。

〔専門分野、支援・アドバイスできる内容〕

県民交流広場事業の活用や整備後の運営・活動の充実を図るため、例えば次のような支援・アドバイスが考えられます。

	助言・支援の例	アドバイザーの例
事業活用支援	体験談披露・地域へのアドバイス： 広場活用の成果、広場の導入・運営で直面した課題と対応方策など(0件)	県民交流広場モデル地域のリーダー
	ワークショップ開催支援： 地域の現状や整備する拠点の活用方法について話し合う、ワークショップの企画助言・進行支援など(5件)	ワークショップの進行ノウハウを持った者
	コミュニティの重要性提起、他地域の事例紹介： 地域主催の学習会やフォーラムの講演・助言など(21件)	研究者・実践家など
運営・活動支援	地域の情報化支援： ホームページ開設、SNS活用方法など(4件)	各分野の専門家、団体・NPOリーダーなど
	NPOとの連携支援： 協働事業の検討・提案づくりなど(0件)	
	コミュニティビジネス支援： 起業ノウハウ・運営方法など(0件)	
	地域人材の確保支援： 地域通貨導入、人材養成の方策など(2件)	
	各種地域課題解決： 防犯、子育て、食・特産品開発、防災、文化、福祉、まちづくり、環境等各分野の活動充実など(34件)	

※ 24年度のコミュニティ応援隊の派遣は66件。その内訳を()書きで記載しています。

〔ワークショップのすすめ〕

県民交流広場のプランづくりをはじめ、コミュニティづくり・まちづくりの分野で、地域の「思いを共有」し、「合意形成」を図っていくためには、ワークショップという手法が効果的です。

モデル地域においても、「多くの住民が広く意見を出し合い、思いを共有するためにはワークショップで、ワイワイ意見を出し合うのが一番良い。やるぞという機運づくりにもなった」という意見が多く聞かれました。

ワークショップとは、講義や講演など一方的な知識の伝達ではなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったりつくり出したりする、双方向の学びと創造のスタイルです。

県民交流広場の事業プランをまとめたり、どのような地域にしていくかを住民みんなで話し合うため、ワークショップの開催をおすすめします。

コミュニティ応援隊には、ワークショップの運営ノウハウを持つ者（ファシリテーター）が数多く参加しています。

〔経費の負担〕

派遣目的	謝 金	交通費
交流広場支援	県負担(3万円)	地域負担(実費相当額)
分野別学習支援		

〔注意事項〕

- 1 交流広場支援は、1地域年1件、分野別学習支援は、同一申請主体年2件の派遣が県負担の対象です。
- 2 県民交流広場交付決定後の謝金・旅費は、広場の活動費助成の対象となり、地域負担となります。
- 3 予算に限りがあるため、県が謝金を負担できないこともあります。
- 4 消費生活センター・地域生活創造情報プラザへのグループ登録により、会場提供等の支援もあります。

〔申込先・お問い合わせ先〕

地 域	県民交流広場事業全般の窓口	直通電話番号	コミュニティ応援隊の窓口	直通電話番号
神 戸	神戸県民局県民福祉課	078-361-8597	神戸県民局県民課	078-361-8543
阪神南	阪神南県民局県民課	06-6481-4397		
阪神北	阪神北県民局県民課	0797-83-3136		
東播磨	東播磨県民局県民課	079-421-9093	東播磨県民局県民課	079-421-9093
北播磨	北播磨県民局県民課	0795-42-9513	嬉野台生涯教育センター	0795-44-0711
中播磨	中播磨県民局県民課	079-281-9196	中播磨県民局中播磨消費生活創造センター	079-281-9601
西播磨	西播磨県民局県民協働課	0791-58-2100	西播磨文化会館	0791-75-3663
但 馬	但馬県民局県民運動課	0796-26-3645	但馬文教府	0796-22-4407
丹 波	丹波県民局県民課 (丹波の森公苑活動支援部)	0795-72-5168	丹波の森公苑	0795-72-2127
淡 路	淡路県民局県民課	0799-26-2043	淡路文化会館	0799-85-1391
全 県	県庁協働推進室	078-362-4000	県庁協働推進室	078-362-4000



お電話をお待ちしています！

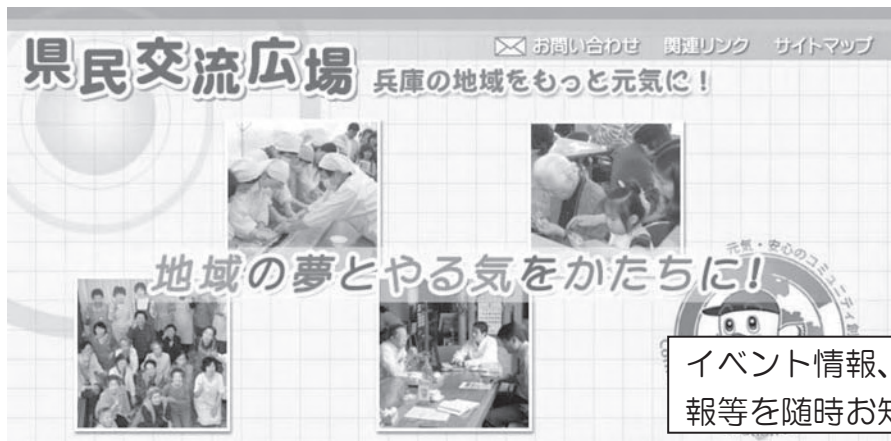


5 ホームページ等による情報発信

県民交流広場事業に関わられる方にとって、事業提案や活動を行っていくにあたって必要となる情報をできるだけ多く知ってもらい、効果的な活動につなげていただくために、「県民交流広場公式ホームページ (<http://www.hyogo.kouryu-hiroba.jp>)」を開設しています。

ホームページでは、イベント情報・ニュース・助成情報等の新着情報をはじめとして、次のような形で情報を発信しています。ぜひ、ご活用ください。

《 「県民交流広場公式ホームページ」のトップページ 》



イベント情報、ニュース、助成情報等を随時お知らせしています。

▶ 新着情報(お知らせ)
イベント情報・ニュース・助成情報等

- 平成24年度当初予算について(2012/02/24)New
- リレーコラム(篠山市日置地区より)(2012/02/13)
- リレーコラム(淡路市生田地区より)(2012/01/26)
- 地域コミュニティ・アワード2011の開催結果(2011/12/20)
- 職制事例集(中)を発行(2011/2/20)

▶ 知事メッセージ

元気で安心な地域づくりをめざして
兵庫県知事 井戸 敏二

▶ コミュニティってなに?

いま、コミュニティが注目されています
コミュニティの現状と未来、活動に参加する魅力をご紹介します

▶ 県民交流広場事業について

皆さまのコミュニティ活動を支援します
県民交流広場事業のご紹介と活用メリット

▶ 事業を活用しよう!

事業の活用をご検討の方へ
応募条件など必要な手続き

▶ プランづくりのポイント

地域づくりは自分たちの手で
立ち上げから運営までのノウハウがいっぱい

▶ さらに詳しく・・・

PRビデオ、ハンドブック、活用の手引き
各種ダウンロードコンテンツが充実

▶ コラム



地域コミュニティが兵庫を変える

県民交流広場事業の実施にあたって参考となる情報を掲載しています。

県民交流広場が
いっぱい!

▶ 地域の紹介



Q&A

▶ よくある質問と回答



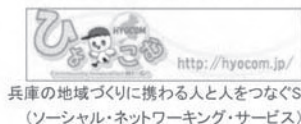
コミュニティ
応援隊

▶ 専門家を派遣します



県民交流広場実施地区
を紹介しています。

県民交流広場事業と協働するNPOの運営サイト



コミュニティ応援隊の派遣に
関する情報を掲載しています。

